

社会資本総合整備計画の 事後評価について

神奈川県 藤沢市





目次

1	社会資本整備総合交付金について	2
2	事後評価について	5
(1)	事後評価の評価事項	6
(2)	湘南のひかり輝く海・まちを未来へ つなぐ下水道	16
(3)	湘南のひかり輝く海・まちを未来へ つなぐ下水道（防災・安全）	52
(4)	今後の方針等に関すること	86



1 社会資本整備総合交付金について

社会資本整備総合交付金とは

これまで…

個別補助金

道路事業費補助

下水道事業費補助

公園費補助

...

まちづくり交付金
(まちづくり)

原則一括化
(平成22年度)

国へ提出

事業の実施

事後評価の実施

社会資本整備総合交付金

社会資本総合整備計画

社会資本総合整備計画 (防災・安全)

インフラの整備
基幹事業

道路事業

下水道事業

公園事業

...

都市再生整備計画事業

関連する事業

効果を促進するための事業

藤沢市の下水道事業における社会資本総合整備計画



- 社会資本整備総合交付金

『湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道』

- 防災・安全交付金

『湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道（防災・安全）』



2 事後評価について



(1) 事後評価の評価事項

第3 社会資本総合整備計画の評価について

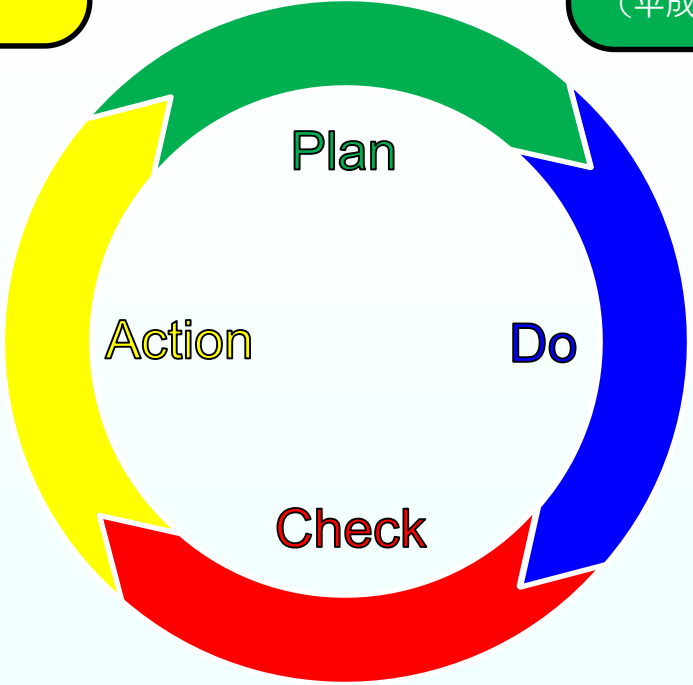
- 4 中間評価及び事後評価は次に掲げる事項について行うものとする。
 - 一 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況 (…)
 - 二 事業効果の発現状況
 - 三 (…) 事後評価にあつては評価指標の最終目標値の実現状況
 - 四 今後の方針

「社会資本整備総合交付金に係る計画等について
(令和3年3月30日改正)」より



Action (改善)
評価結果を受けての次計画
への改善や対策

Plan (計画)
『湘南のひかり輝く海・ま
ちを未来へつなぐ下水道』
(平成28年～令和2年)



交付金をもたらした成果等を客観的に診断し、成否の要因を分析して、今後のまちづくりを適切な方向に導くとともに、これらを住民にわかりやすく説明すること

Check (評価)
中間評価・事後評価

Do (実行)
未普及対策事業
合流式下水道緊急対策事業
他





ふじきゅん♡

(1) 事後評価の評価事項

国に提出する事後評価シート様式

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
	公表の方法
○事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	
○特記事項（今後の方針等）	

案件番号：





ふじきゅん♡

(1) 事後評価の評価事項

国に提出する事後評価シート様式

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	
	目標値／実績値	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	
	最終実績値	





(1) 事後評価の評価事項

通常分 (案)

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
令和4年3月3日に社会資本総合整備計画事後評価委員会を開催し、学識経験者を含む第三者から事後評価についての意見を聴取した。	令和4年3月
	公表の方法
	ホームページにて、事後評価書及び説明版資料を公表
○事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・未普及地域において污水管渠の整備を行ったことにより、単独浄化槽での処理から処理場での処理に変わり、公衆衛生が向上し、公共水域の水質が改善した。 ・北部区画整理事業区域において雨水管渠の整備を行ったことにより、浸水被害の軽減が図られた。 ・南部処理区処理場における自家発電設備の整備により、非常時におけるさらなる電源の確保ができるようになった。 ・南部処理区ポンプ場におけるポンプ設備の整備により、効率的な運転が可能となった。 ・南部処理区処理場における用水設備原水ポンプ設備の整備により、汚泥処理設備で使用する用水のバックアップが確保できるようになった。 ・円行第二排水区における雨水管渠に係る詳細設計を実施したことにより、この設計に基づく整備工事を実施することで、その効果を発現することが可能となった。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況 (必要に応じて記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・南部処理区処理場における用水設備原水ポンプ設備の整備により、より適切な運転・維持管理が可能となった。
○特記事項 (今後の方針等)	
他事業の進捗に合わせて進めていく。	

案件番号：



(1) 事後評価の評価事項

通常分 (案)



○目標値の達成状況		
番号	指標 (略称)	目標値と実績値に差が出た要因
1	下水道処理人口普及率	効率的に事業執行したことから、最終目標値を上回った。
	最終目標値	
2	下水道処理人口普及率	効率的に事業執行したことから、最終目標値を上回った。
	最終実績値	
2	北部区画整理事業区域内における雨水管渠の整備率	整備を予定していた都市計画道及び接続する区画街路部分において、埋蔵文化財本格調査が必要となり、工事着手ができなかったため、最終目標値に至らなかった。
	最終目標値	
3	最終実績値	65%
	効率的汚水処理施設整備(アクションプラン)計画策定率	アクションプラン策定対象が概成していない都市と示され、策定対象外となったため。
最終目標値	100%	
4	最終実績値	0%
	南部処理区処理場自家発電設備整備率	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
最終目標値	100%	
5	最終実績値	100%
	南部処理区ポンプ場ポンプ設備整備率	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
最終目標値	100%	

1

案件番号：



(1) 事後評価の評価事項

通常分 (案)



○目標値の達成状況		
番号	指標 (略称)	目標値と実績値に差が出た要因
6	目標値/実績値	目標値と実績値に差が出た要因
	南部処理区処理場用水設備原水ポンプ設備整備率	
	最終目標値 100%	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	最終実績値 100%	
7	目標値/実績値	目標値と実績値に差が出た要因
	円行第二排水区雨水管渠に係る詳細設計の実施	
	最終目標値 1箇所	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	最終実績値 1箇所	



(1) 事後評価の評価事項

防災・安全分 (案)

事後評価	
○事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
令和4年3月3日に社会資本総合整備計画事後評価委員会を開催し、学識経験者を含む第三者から事後評価についての意見を聴取した。	令和4年3月
	公表の方法
	ホームページにて、事後評価書及び説明版資料を公表
○事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 合流式下水道改善率の向上に係る事業を実施したことにより、この事業の完了に伴いその効果を発現する。 管渠の改築・更新により、老朽化に起因する道路陥没等の未然に防ぐことにつながった。 処理場・ポンプ場施設の改築・更新により、事故発生や機能停止の未然の防止につながった。 重要な管渠の耐震化により、震災時における下水道の流下能力の確保、向上が図られた。 処理場・ポンプ場施設の耐震化により、震災時における下水道の処理機能の確保、向上が図られた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<ul style="list-style-type: none"> 処理場・ポンプ場施設の改築・更新により、機能向上が図られ、運用の負担の軽減やエネルギー効率の向上に寄与した。
○特記事項（今後の方針等）	
財政状況の厳しさから予算の確保が難しいながらも、まずは令和5年度までの時限が定められている合流式下水道改善事業を主体に行う。また、中期経営計画（案）で重点施策と位置づけている・下水道施設の計画的な地震・津波対策の推進（ハード対策）・ストックマネジメント実施方針の着実な推進・効率的な浸水対策施設整備の推進を行っていく。	

案件番号：



(1) 事後評価の評価事項

防災・安全分 (案)



○目標値の達成状況		
番号	指標 (略称)	目標値と実績値に差が出た要因
1	目標値/実績値	浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の評価実施率 適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。
	最終目標値 100%	
2	最終実績値 100%	合流式下水道改善率 目標値の達成は令和5年度事業完了時のため、数値はそのまま。
	最終目標値 35%	
3	最終実績値 35%	管渠の改築・更新達成率 経過年数等を考慮し、長寿命化計画における対象区域の全施設に対して対策を行うこととしていたが、市域全体でのストックマネジメント計画策定により、緊急性の高い施設に対して対策を行うこととしたため。
	最終目標値 6%	
4	最終実績値 3%	処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率 計画に含まれる1か所について、計画の見直しを行ったため。
	最終目標値 26%	
5	最終実績値 25%	重要な管渠の耐震化率 適切に事業を執行したことに加え、令和2年度の国補正第3号予算に伴う事業の前倒し実施をしたため、目標を上回った。
	最終目標値 15%	

1

案件番号：



(1) 事後評価の評価事項

防災・安全分 (案)



○目標値の達成状況		
番号	指標 (略称)	目標値と実績値に差が出た要因
6	目標値/実績値 処理場・ポンプ場施設の耐震化率	適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。
	最終目標値 22%	





(2) 湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道

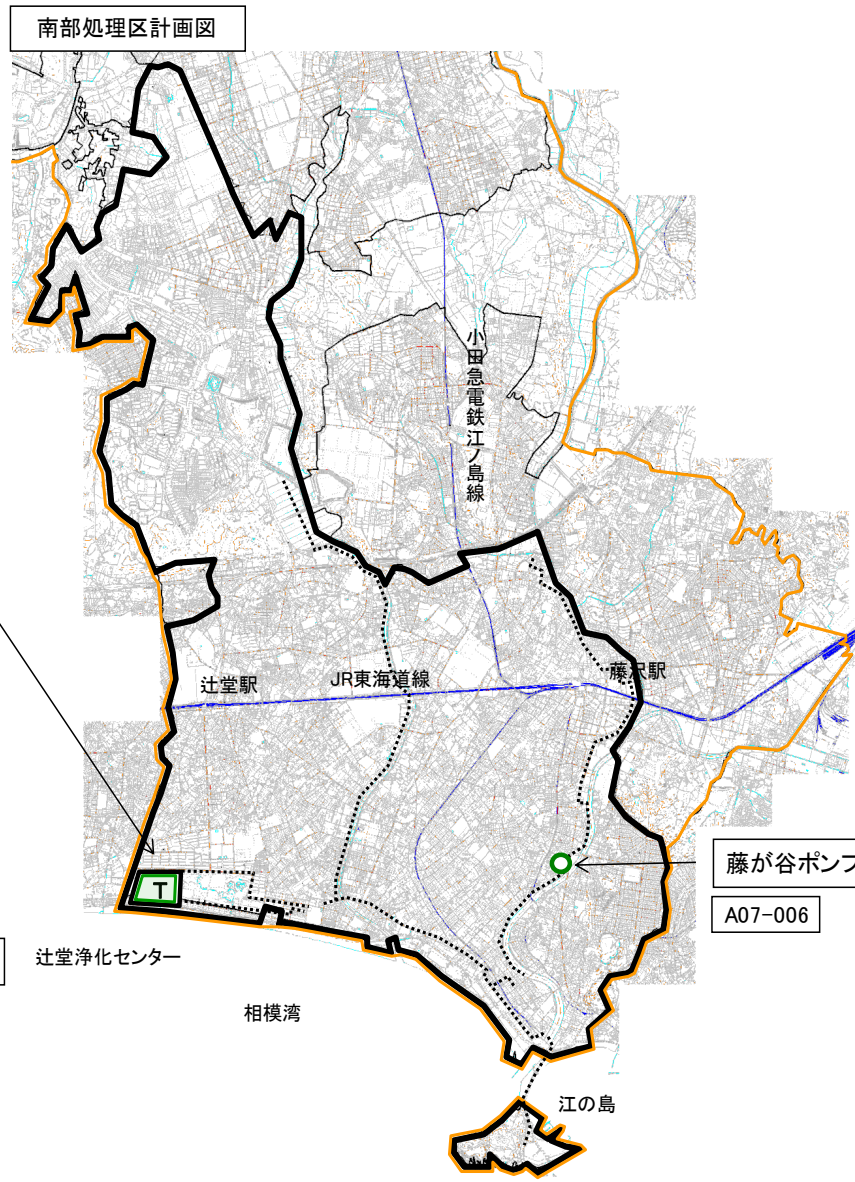
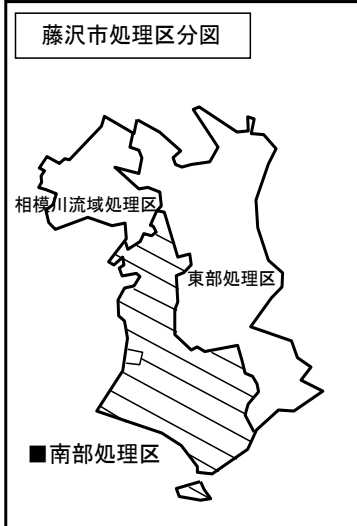
・ 要素事業の進捗状況 (H28～R2) (基幹事業)

(単位：百万円)

要素事業番号	要素となる事業名	事業内容	全体事業費 (計画値)	全体事業費 (実績値)	総事業費	進捗状況
A07-001	湘南台西地区管渠整備(雨水)	φ300～1800 L=1.2km	145	85	390	事業中
A07-002	湘南台西地区管渠整備(汚水)	φ200～350 L=1.7km	282	75	656	事業中
A07-003	相模川流域処理区管渠整備(汚水)	φ200 L=2.5km	281	98	413	事業中
A07-004	効率的汚水処理整備計画策定	アクションプランの策定	4	0	0	—
A07-005	辻堂浄化センター	自家発電設備整備、 用水設備整備	480	289	506	完了
A07-006	南部処理区ポンプ場	ポンプ設備整備	204	76	78	完了
A07-007	円行地区管渠整備(雨水)	φ1350～1500 L=0.46km	16	6	36	事業中
		計	1,412	629	2,079	



計画の名称	湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道		交付対象	藤沢市
計画の期間	平成28年度 ~ 令和2年度 (5年間)			

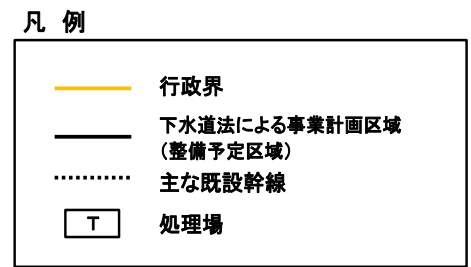


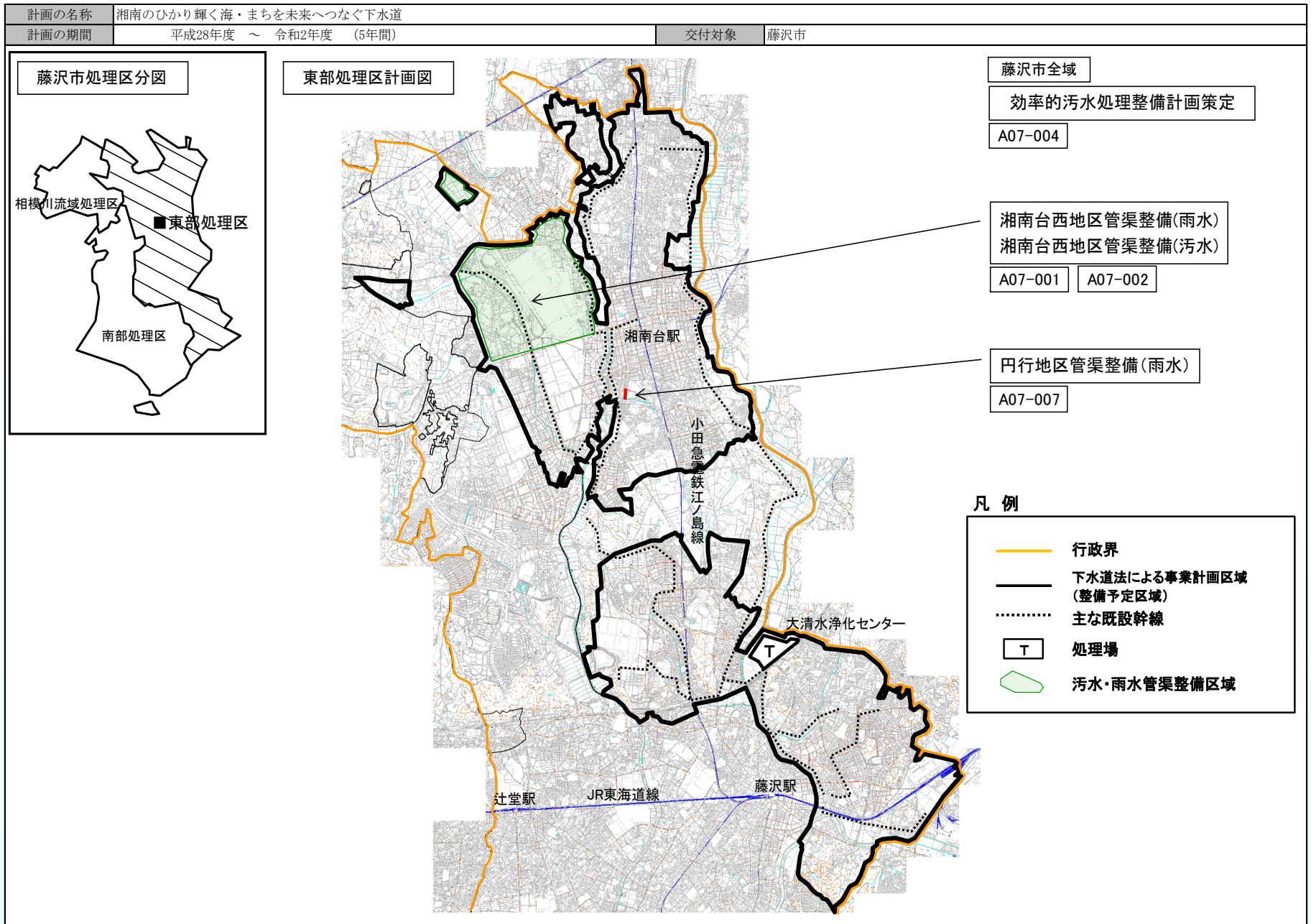
辻堂浄化センター
A07-005

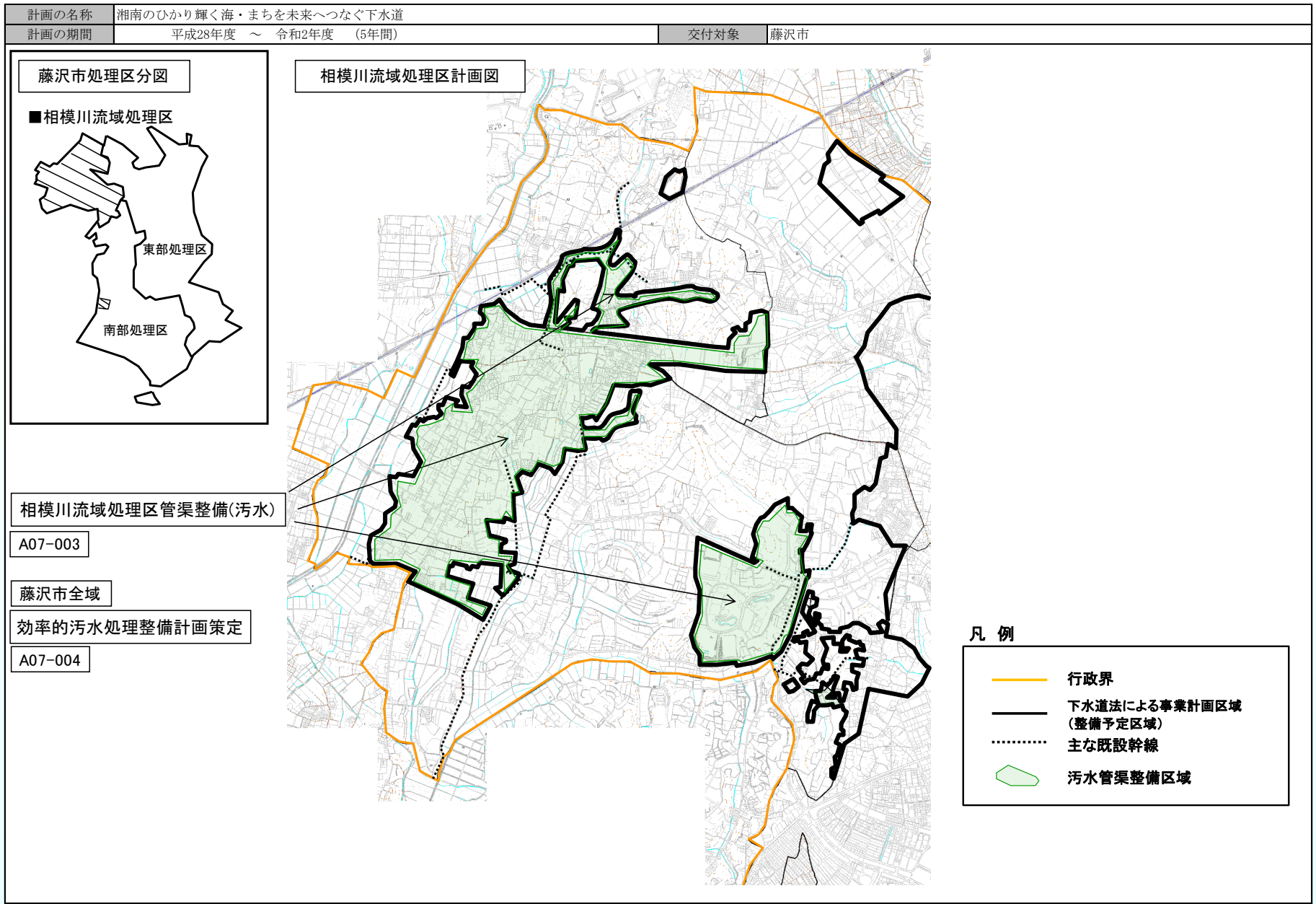
藤沢市全域

効率的汚水処理整備計画策定
A07-004

藤が谷ポンプ場
A07-006









(2) 湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道

- 計画の成果目標
 - 1 下水道処理人口普及率を95.2% (H28) から95.4% (R2) に増加させる。【A07-002,003】
 - 2 北部区画整理事業区域における雨水管渠の整備率を57.7%(H28)から66.1%(R2)に増加させる。【A07-001】
 - 3 効率的汚水処理施設整備(アクションプラン)計画策定率を0.0%(H28)から100.0%(R2)に増加させる。【A07-004】
 - 4 南部処理区処理場における自家発電設備整備率を50.0%(H28)から100.0%(R2)に増加させる。【A07-005】
 - 5 南部処理区ポンプ場におけるポンプ設備整備率を94.4%(H28)から100.0%(R2)に増加させる。【A07-006】
 - 6 南部処理区処理場における用水設備原水ポンプ設備整備率を0%(R2)から100.0%(R2)に増加させる。【A07-005】
 - 7 円行第二排水区雨水管渠に係る詳細設計を実施する。【A07-007】

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道				重点配分対象の該当								
計画の期間	平成28年度～令和02年度(5年間)												
交付対象	藤沢市												
計画の目標	藤沢市公共下水道事業は5つの目標に向け、事業を推進いたします。 ●安全・安心なまちづくりへの貢献 ●湘南の自然環境との共生 ●地域から取り組む地球環境保全 ●快適で潤いあるまちづくりへの貢献 ●自然・ひと・まちが共生する都市を次世代につなぐ												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	1,412	A	1,412	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	0	%

番号	計画の成果目標(定量的指標)			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値	中間目標値	最終目標値
		H28当初	H30末	R2末
1	下水道処理人口普及率を95.2%(H28)から95.4%(R2)に増加させる。 下水道処理人口普及率 下水道を利用できる人口(人)/行政人口(人)	95%	95%	95%
2	北部区画整理事業区域における雨水管渠の整備率を57.7%(H28)から66.1%(R2)に増加させる。 北部区画整理事業区域内における雨水管渠の整備率 雨水管渠整備延長(km)/計画延長(km)	58%	63%	66%
3	効率的汚水処理施設整備(アクションプラン)計画策定率を0.0%(H28)から100.0%(R2)に増加させる。 効率的汚水処理施設整備(アクションプラン)計画策定率 策定済計画数(件)/計画策定必要数(件)	0%	100%	100%
4	南部処理区処理場における自家発電設備整備率を50.0%(H28)から100.0%(R2)に増加させる。 南部処理区処理場自家発電設備整備率 整備済み台数(台)/計画台数(台)	50%	100%	100%
5	南部処理区ポンプ場におけるポンプ設備整備率を94.4%(H28)から100.0%(R2)に増加させる。 南部処理区ポンプ場ポンプ設備整備率 整備済み台数(台)/計画台数(台)	94%	100%	100%
6	南部処理区処理場における用水設備原水ポンプ設備整備率を0%(R2)から100.0%(R2)に増加させる。 南部処理区処理場用水設備原水ポンプ設備整備率 整備済み台数(台)/計画台数(台)	0%	0%	100%



番号	計画の成果目標（定量的指標）											
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値										
		当初現況値	中間目標値	最終目標値								
		H28当初	H30末	R2末								
7	円行第二排水区雨水管渠に係る詳細設計を実施する。 円行第二排水区雨水管渠に係る詳細設計の実施 詳細設計実施箇所数	0箇所	0箇所	1箇所								
備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-





- 1 下水道処理人口普及率を95.2%（H28）から95.4%（R2）に増加させる。
【要素事業番号 A07-002,003】

下水道人口普及率

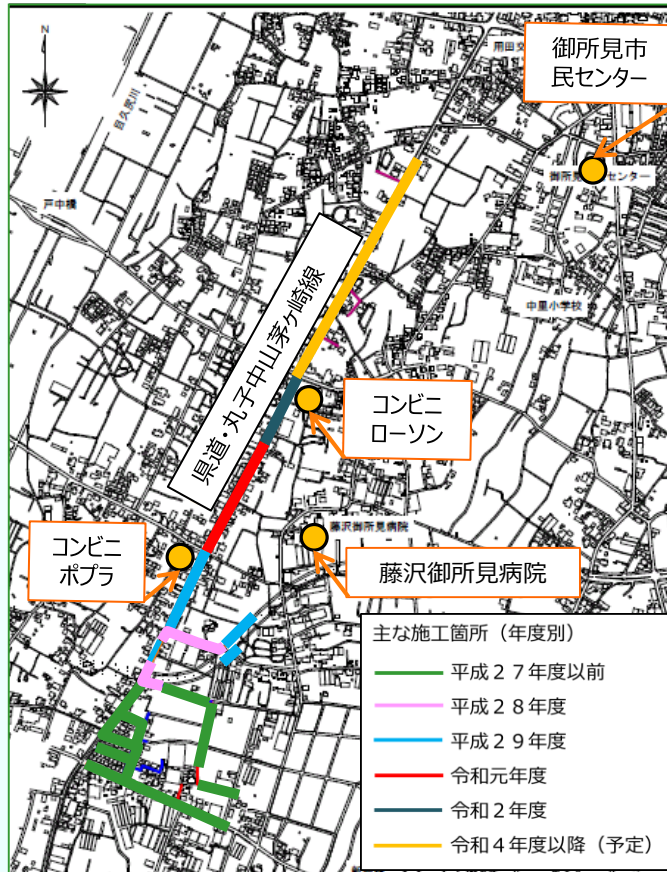
下水道を利用できる人口（人）／行政人口（人）

○目標値の達成状況		
番号	指標(略称)	目標値と実績値に差が出た要因
1	下水道処理人口普及率	
	最終目標値 95%	効率的に事業執行したことから、最終目標値を上回った。
最終実績値 96%		
2	北部区画整理事業区域内における雨水管渠の整備率	
	最終目標値 66%	整備を予定していた都市計画道及び接続する区画街路部分において、埋蔵文化財本格調査が必要となり、工事着手ができなかったため、最終目標値に至らなかった。
最終実績値 65%		
3	効率的汚水処理施設整備(アクションプラン)計画策定率	
	最終目標値 100%	アクションプラン策定対象が概成していない都市と示され、策定対象外となったため。
最終実績値 0%		
4	南部処理区処理場自家発電設備整備率	
	最終目標値 100%	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
最終実績値 100%		
5	南部処理区ポンプ場ポンプ設備整備率	
	最終目標値 100%	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
最終実績値 100%		



1 下水道人口普及率

快適な生活環境を創造するため、**公共下水道の整備**に取り組みました。



現地状況



令和元年度
宮原地内污水管渠築造
工事
 $\Phi=200\text{mm}$
 $L=412.46\text{m}$



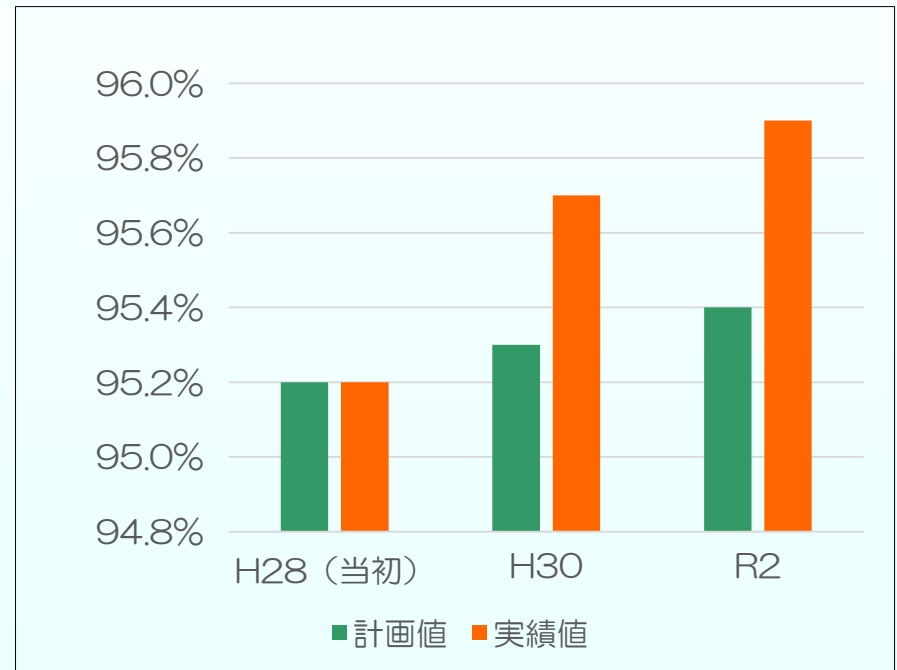


1 下水道人口普及率



● 目標値と実績値に差が出た要因
 効率的に事業執行したことから、最終目標値を上回った。

- 主な事業内容
- 宮原地内污水管渠築造工事 (R1)
 - 宮原地内污水管渠築造工事 (R2)
 - E8-7号線污水・雨水管渠及び区画街路築造外工事 (R1)





- 2 北部区画整理事業区域における雨水管渠の整備率を57.7%（H28）から66.1%（R2）に増加させる。**
【要素事業番号 A07-001】

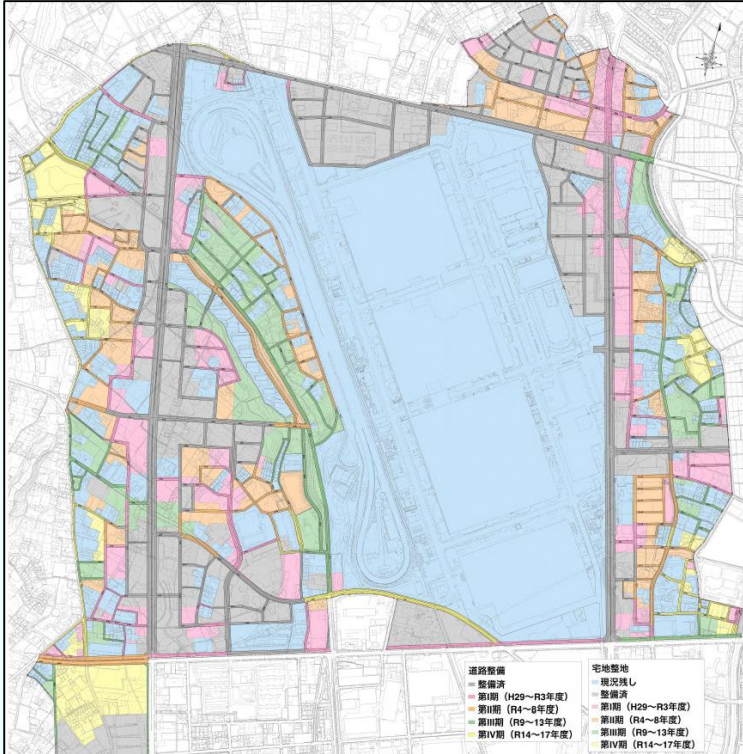
**北部区画整理事業区域内における雨水管渠の整備率
雨水管渠整備延長（km）／計画延長（km）**

○目標値の達成状況		
番号	指標(略称)	目標値と実績値に差が出た要因
1	下水道処理人口普及率	効率的に事業執行したことから、最終目標値を上回った。
	最終目標値 95%	
2	北部区画整理事業区域内における雨水管渠の整備率	整備を予定していた都市計画道及び接続する区画街路部分において、埋蔵文化財本格調査が必要となり、工事着手ができなかったため、最終目標値に至らなかった。
	最終実績値 65%	
3	効率的汚水処理施設整備(アクションプラン)計画策定率	アクションプラン策定対象が概成していない都市と示され、策定対象外となったため。
	最終実績値 0%	
4	南部処理区処理場自家発電設備整備率	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	最終目標値 100%	
5	南部処理区ポンプ場ポンプ設備整備率	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	最終実績値 100%	

2 北部区画整理事業区域内における雨水管渠の整備率

市街地における雨水の速やか排除のため、**雨水管渠の整備**を進めました。

土地区画整理事業区域内
整備区域・工程図



現地状況



令和2年度
E8-2号線汚水・雨水管渠
及び区画街路築造外工事
Φ=800mm, L=65.73m
Φ=250mm, L=59.56m





2 北部区画整理事業区域内における雨水管渠の整備率

当初現況値
(H28年度当初)
57.7%
(29.381 k m / 50.890 k m)



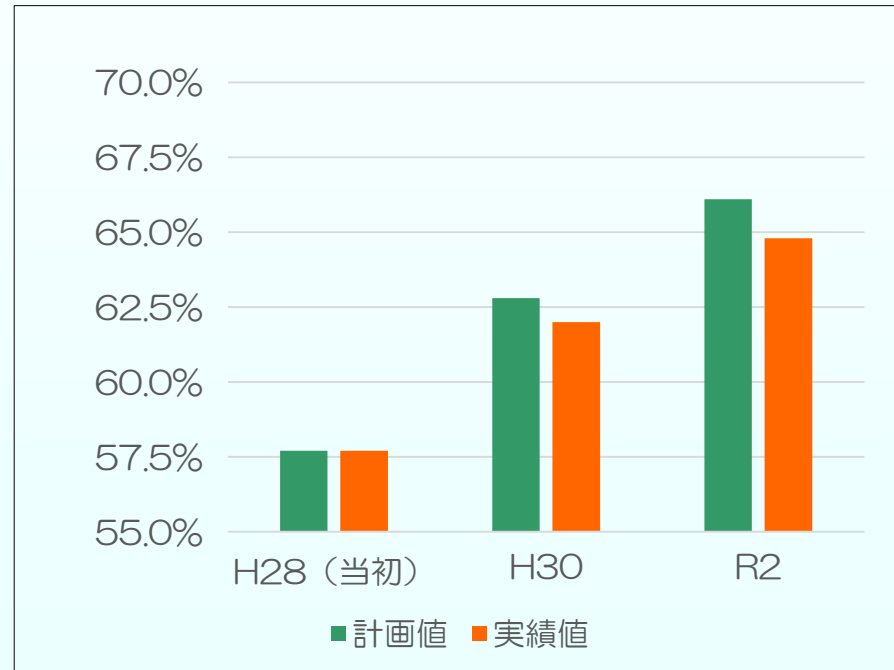
最終目標値
(R2年度末)
66.1%
(33.681 k m / 50.890 k m)



最終実績値
(R2年度末)
64.8%
(32.972 k m / 50.890 k m)

● 目標値と実績値に差が出た要因
整備を予定していた都市計画道及び接続する区画街路部分において、埋蔵文化財本格調査が必要となり、工事着手ができなかったため、最終目標値に至らなかった。

● 主な事業内容
E8-2号線汚水・雨水管渠及び区画街路築造外工事 (R2)
高倉遠藤線汚水・雨水管渠築造及びD24街区造成外工事 (R2)





3 効率的汚水処理施設整備（アクションプラン）計画 策定率を0.0%（H28）から100.0%（R2）に 増加させる。 【要素事業番号 A07-004】

効率的汚水処理施設整備（アクションプラン）計画
策定率
策定済計画数（件）／計画策定必要数（件）

○目標値の達成状況		
番号	指標(略称)	目標値と実績値に差が出た要因
1	下水道処理人口普及率	効率的に事業執行したことから、最終目標値を上回った。
	最終目標値 95%	
2	北部区画整理事業区域内における雨水管渠の整備率	整備を予定していた都市計画道及び接続する区画街路部分において、埋蔵文化財本格調査が必要となり、工事着手ができなかったため、最終目標値に至らなかった。
	最終実績値 96%	
3	効率的汚水処理施設整備(アクションプラン)計画策定率	アクションプラン策定対象が概成していない都市と示され、策定対象外となったため。
	最終目標値 100%	
4	南部処理区処理場自家発電設備整備率	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	最終実績値 0%	
5	南部処理区ポンプ場ポンプ設備整備率	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	最終目標値 100%	
	最終実績値 100%	



3 効率的汚水処理施設整備（アクションプラン） 計画策定率

汚水処理人口普及率95%を超えているため実質達成

●国の動き（平成26年1月）

「持続的な汚水処理システム構築に向けた都道府県構想の見直しについて」

3省連名 農水省・国交省・環境省

①未整備区域における汚水処理の早期概成

・10年概成を目指しアクションプランを作成

●国の動き（平成28年7月）

「都道府県構想の見直し及びアクションプランの策定について」

3省連名 農水省・国交省・環境省

●県の動き（平成30年1月）

「神奈川県生活排水処理施設整備構想」改定

藤沢市は見直し時点の基準年（平成28年度）で汚水処理人口普及率95.7%と既に概成のため、アクションプランの策定対象外 ⇒ **実質達成**



3 効率的汚水処理施設整備（アクションプラン） 計画策定率



アクションプラン策定対象が概成（汚水処理人口普及率95%以上）していない都市と示されたため、本市は策定対象外となり実質達成





- 4 南部処理区処理場における自家発電設備整備率を50.0%（H28）から100.0%（R2）に増加させる。**
【要素事業番号 A07-005】

**南部処理区処理場自家発電設備整備率
整備済み台数（台）／計画台数（台）**

○目標値の達成状況		
番号	指標(略称)	目標値と実績値に差が出た要因
1	下水道処理人口普及率	効率的に事業執行したことから、最終目標値を上回った。
	最終目標値 95%	
2	北部区画整理事業区域内における雨水管渠の整備率	整備を予定していた都市計画道及び接続する区画街路部分において、埋蔵文化財本格調査が必要となり、工事着手ができなかったため、最終目標値に至らなかった。
	最終実績値 96%	
3	効率的汚水処理施設整備(アクションプラン)計画策定率	アクションプラン策定対象が概成していない都市と示され、策定対象外となったため。
	最終目標値 100%	
4	南部処理区処理場自家発電設備整備率	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	最終実績値 100%	
5	南部処理区ポンプ場ポンプ設備整備率	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	最終目標値 100%	
	最終実績値 100%	

4 南部処理区処理場自家発電設備整備率

非常時の機能確保のため、**処理場の自家発電設備の整備**に取り組みました。

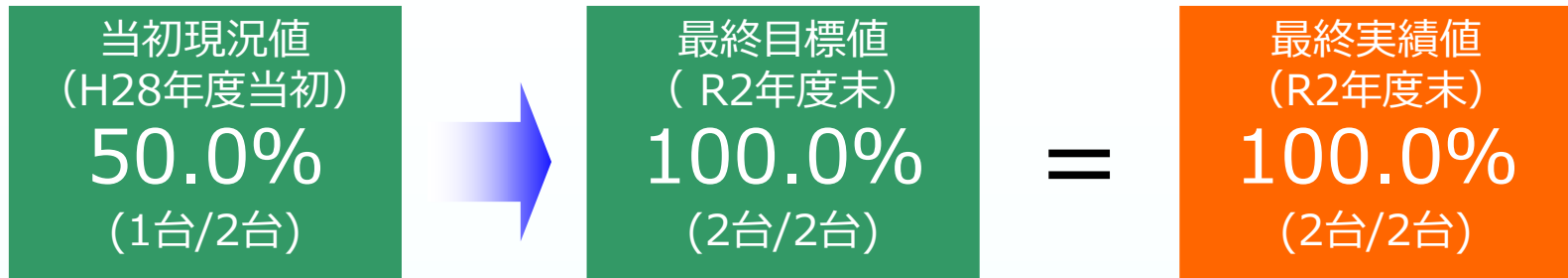
現地状況

平成28-29年度
辻堂浄化センター発電機設備増設工事



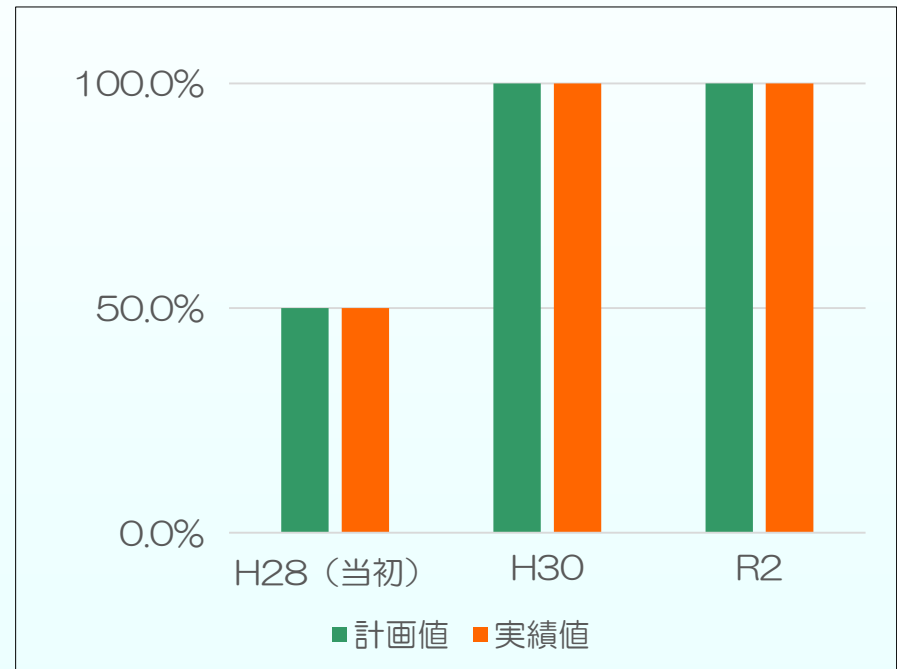


4 南部処理区処理場自家発電設備整備率



● 目標値と実績値に差が出た要因
適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。

● 事業内容
辻堂浄化センター発電機設備増設工事
(H28-29)





- 5 南部処理区ポンプ場におけるポンプ設備整備率を94.4%（H28）から100.0%（R2）に増加させる。**
【要素事業番号 A07-006】

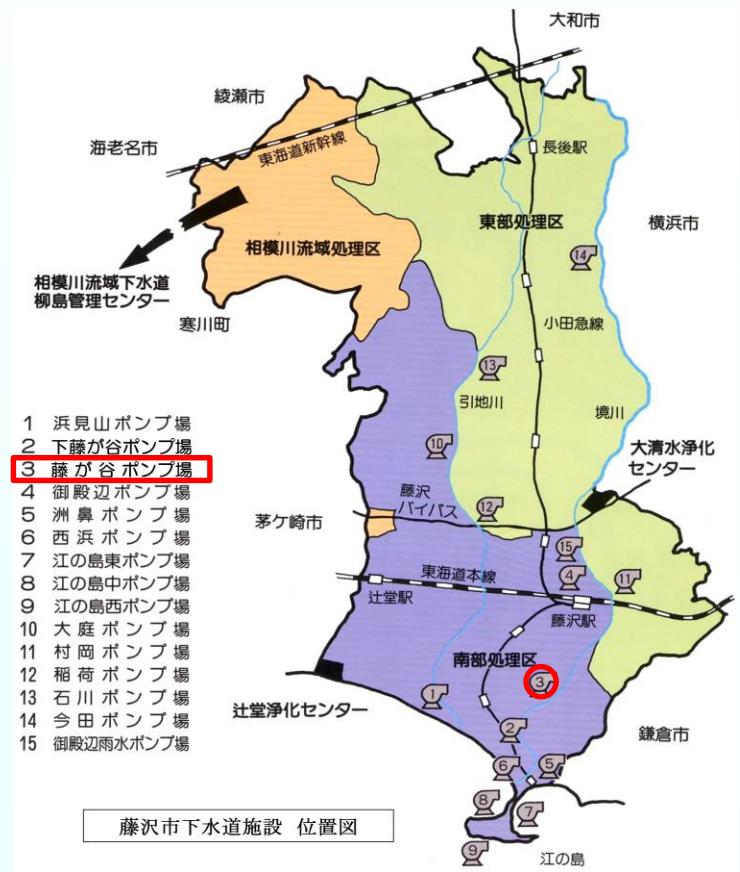
南部処理区ポンプ場ポンプ設備整備率
整備済み台数（台）／計画台数（台）

○目標値の達成状況		
番号	指標(略称)	目標値と実績値に差が出た要因
1	下水道処理人口普及率	効率的に事業執行したことから、最終目標値を上回った。
	最終目標値 95%	
2	北部区画整理事業区域内における雨水管渠の整備率	整備を予定していた都市計画道及び接続する区画街路部分において、埋蔵文化財本格調査が必要となり、工事着手ができなかったため、最終目標値に至らなかった。
	最終実績値 96%	
3	効率的汚水処理施設整備(アクションプラン)計画策定率	アクションプラン策定対象が概成していない都市と示され、策定対象外となったため。
	最終目標値 100%	
4	南部処理区処理場自家発電設備整備率	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	最終実績値 0%	
5	南部処理区ポンプ場ポンプ設備整備率	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	最終目標値 100%	
	最終実績値 100%	



5 南部処理区ポンプ場ポンプ設備整備率

適正な施設機能確保のため、**ポンプ場のポンプ設備の整備**に取り組みました。



現地状況

平成29-30年度
藤が谷ポンプ場汚水ポンプ
設備改築及び増設機械
工事



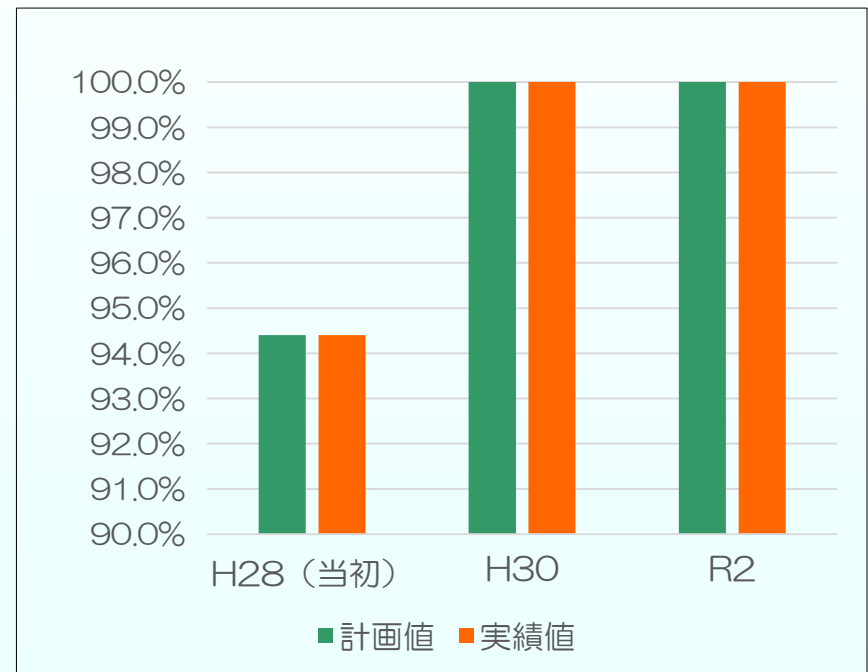


5 南部処理区ポンプ場ポンプ設備整備率



● 目標値と実績値に差が出た要因
 適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。

- 事業内容
 藤が谷ポンプ場受変電設備他改築電気工事 (H29-30)
 藤が谷ポンプ場汚水ポンプ設備改築及び増設機械工事 (H29-30)





- 6 南部処理区処理場における用水設備原水ポンプ設備整備率を0%（H28）から100.0%（R2）に増加させる。
【要素事業番号 A07-005】**

**南部処理区処理場用水設備原水ポンプ設備整備率
整備済み台数（台）／計画台数（台）**

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	目標値と実績値に差が出た要因
6	目標値／実績値	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	南部処理区処理場用水設備原水ポンプ設備整備率	
6	最終目標値	100%
	最終実績値	100%
7	目標値／実績値	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	門行第二排水区雨水官渠に係る詳細設計の実施	
7	最終目標値	1箇所
	最終実績値	1箇所



6 南部処理区処理場用水設備原水ポンプ設備整備率

安定的な汚泥処理を担保するため、**処理場の用水設備原水ポンプ設備の整備**に取り組みました。



現地状況

令和2年度
辻堂浄化センター用水設備
原水ポンプ増設工事



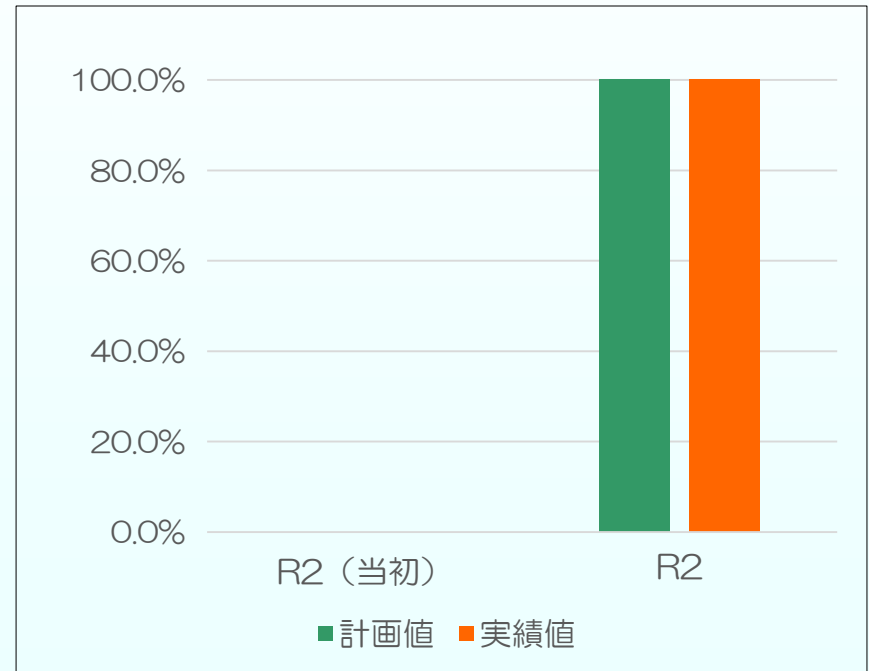


6 南部処理区処理場用水設備原水ポンプ設備整備率



● 目標値と実績値に差が出た要因
適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。

- 事業内容
- 辻堂浄化センター用水設備原水ポンプ増設工事 (R2)
- 辻堂浄化センター用水設備原水ポンプ負荷設備増設工事 (R2)





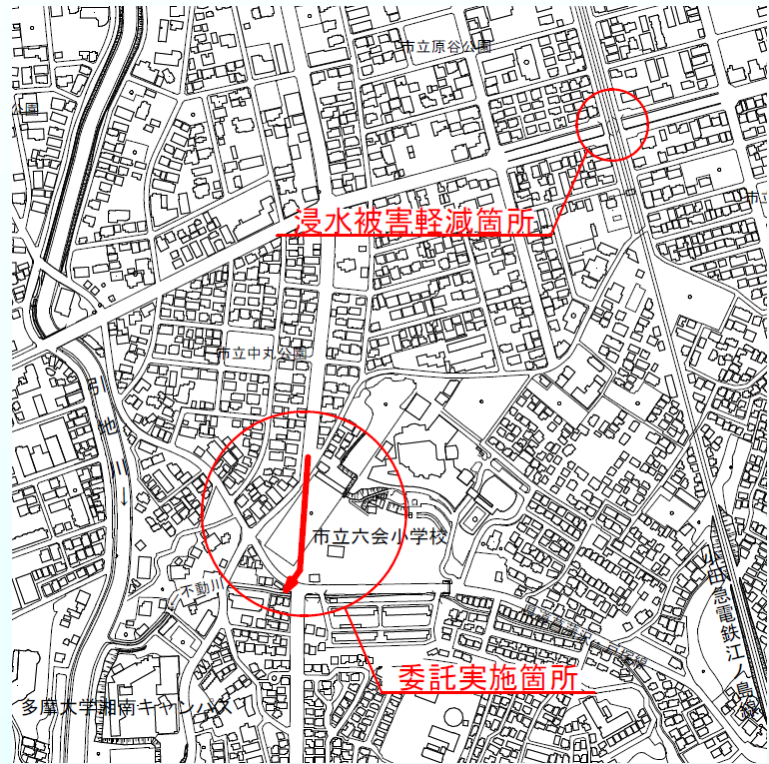
7 円行第二排水区雨水管渠に係る詳細設計を実施する。 【要素事業番号 A07-007】

円行第二排水区雨水管渠に係る詳細設計の実施
詳細設計実施箇所数

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	目標値と実績値に差が出た要因
6	目標値／実績値	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	南部処理区処理場用水設備原水ポンプ設備整備率	
	最終目標値	100%
	最終実績値	100%
7	目標値／実績値	適切に事業を執行したことから、最終目標値に達した。
	円行第二排水区雨水管渠に係る詳細設計の実施	
	最終目標値	1箇所
	最終実績値	1箇所

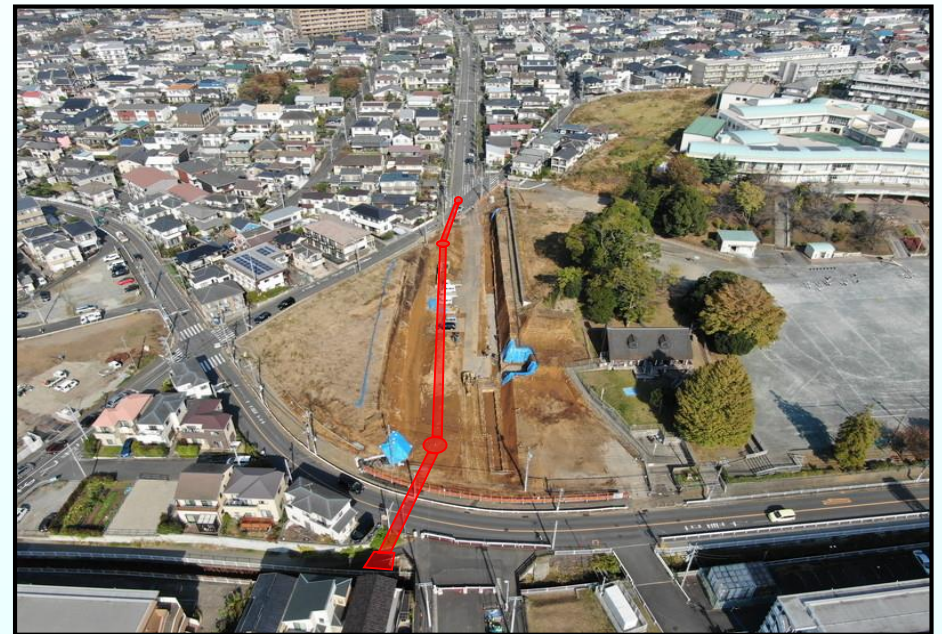
7 円行第二排水区雨水管渠に係る詳細設計の実施

強雨時の小田急線ガード下における浸水被害を軽減するため、円行第二地区における**雨水管整備の詳細設計**に取り組みました。



現地状況

令和2年度
円行第二排水区雨水管渠実施設計
(詳細設計) 及び地質調査委託





7 円行第二排水区雨水管渠に係る詳細設計の実施



● 目標値と実績値に差が出た要因
適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。

● 事業内容
円行第二排水区雨水管渠実施設計
(詳細設計) 及び地質調査委託

※ 当該設計委託に基づく工事は令和3年度現在、施工中。
令和3-4年度
円行第二排水区雨水管渠築造工事



★事業効果の発現状況

- 未普及地域において污水管渠の整備を行ったことにより、単独浄化槽での処理から処理場での処理に変わり、公衆衛生が向上し、公共用水域の水質が改善した。
- 北部区画整理事業区域において雨水管渠の整備を行ったことにより、浸水被害の軽減が図られた。
- 南部処理区処理場における自家発電設備の整備により、非常時におけるさらなる電源の確保ができるようになった。
- 南部処理区ポンプ場におけるポンプ設備の整備により、効率的な運転が可能となった。
- 南部処理区処理場における用水設備原水ポンプ設備の整備により、汚泥処理設備で使用する用水のバックアップが確保できるようになった。
- 円行第二排水区における雨水管渠に係る詳細設計を実施したことにより、この設計に基づく整備工事を実施することで、その効果を発現することが可能となった。

(3) 湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道 (防災・安全)



要素事業の進捗状況 (H28~R2) (基幹事業) (1)

(単位：百万円)

要素事業 番号	要素となる事業名	事業内容	全体事業費 (計画値)	全体事業費 (実績値)	総事業費	進捗 状況
A07-001	辻堂南部地区管渠整備	□4100×150 〇L=0.5km	1,597	1,067	2,034	事業中
A07-002	辻堂浄化センター汚濁負 荷量削減対策施設整備	辻堂浄化セン ター	1,130	75	319	事業中
A07-003	辻堂浄化センター地震対 策	辻堂浄化セン ターの地震対策	2,377	682	1,282	事業中
A07-004	辻堂浄化センター改築更 新	辻堂浄化セン ターの改築更新	1,093	932	972	事業中
A07-005	南部処理区ポンプ場地震 対策	南部処理区ポン プ場の地震対策	726	56	150	事業中
A07-006	南部処理区ポンプ場改築 更新	南部処理区ポン プ場の改築更新	1,033	399	441	事業中
A07-007	南部処理区管渠地震対策	管渠の耐震化, マンホール浮上 防止, 吐口ゲー ト遠方操作化	693	265	367	事業中



(3) 湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道 (防災・安全)



- 要素事業の進捗状況 (H28～R2) (基幹事業) (2)

(単位：百万円)

要素事業 番号	要素となる事業名	事業内容	全体事業費 (計画値)	全体事業費 (実績値)	総事業費	進捗 状況
A07-008	南部処理区管渠改築更新	長寿命化調査、計画策定、管渠の改築更新 L=3.8km	937	61	64	事業中
A07-009	南部処理区浸水対策	南部処理区浸水対策	200	0	0	事業中
A07-010	大清水浄化センター地震対策	大清水浄化センターの地震対策	344	349	389	事業中
A07-011	大清水浄化センター改築更新	大清水浄化センターの改築更新	277	193	195	事業中
A07-012	東部処理区管渠改築更新	長寿命化調査、計画策定、管渠の改築更新 L=0.6km	233	0	0	事業中
A07-013	浸水シミュレーション	浸水シミュレーション	32	0	68	完了

(3) 湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道 (防災・安全)



- 要素事業の進捗状況 (H28～R2) (基幹事業) (3)

(単位：百万円)

要素事業 番号	要素となる事業名	事業内容	全体事業費 (計画値)	全体事業費 (実績値)	総事業費	進捗 状況
A07-014	ストックマネジメント 計画	ストックマネジメ ント計画	218	217	264	事業中
A07-015	東部処理区管渠地震対 策	管渠の耐震化、マ ンホール浮上防止	260	247	327	事業中
A07-016	東部処理区ポンプ場 地震対策	東部処理区ポンプ 場の地震対策	46	45	50	事業中
A07-017	南部処理区管渠ストッ クマネジメント	管渠の調査・診断、 管渠の改築更新	90	90	245	事業中
A07-018	処理場ストックマネジ メント	処理場の改築更新	305	212	326	事業中
A07-019	東部処理区管渠ストッ クマネジメント	管渠の改築更新	34	34	52	事業中
		計	11,625	4,924	7,477	



(3) 湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道 (防災・安全)



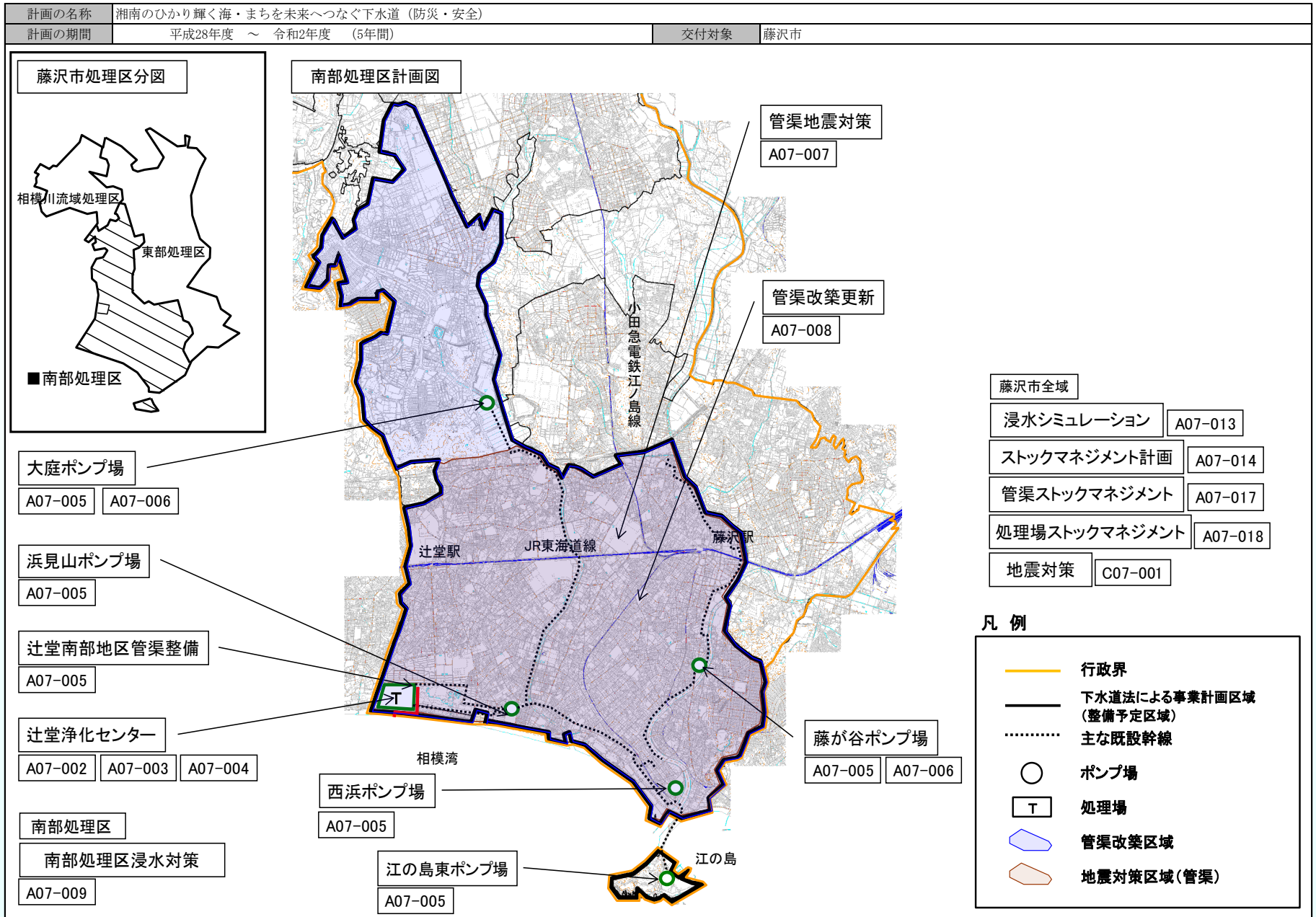
- 要素事業の進捗状況 (H28～R2) (効果促進事業)

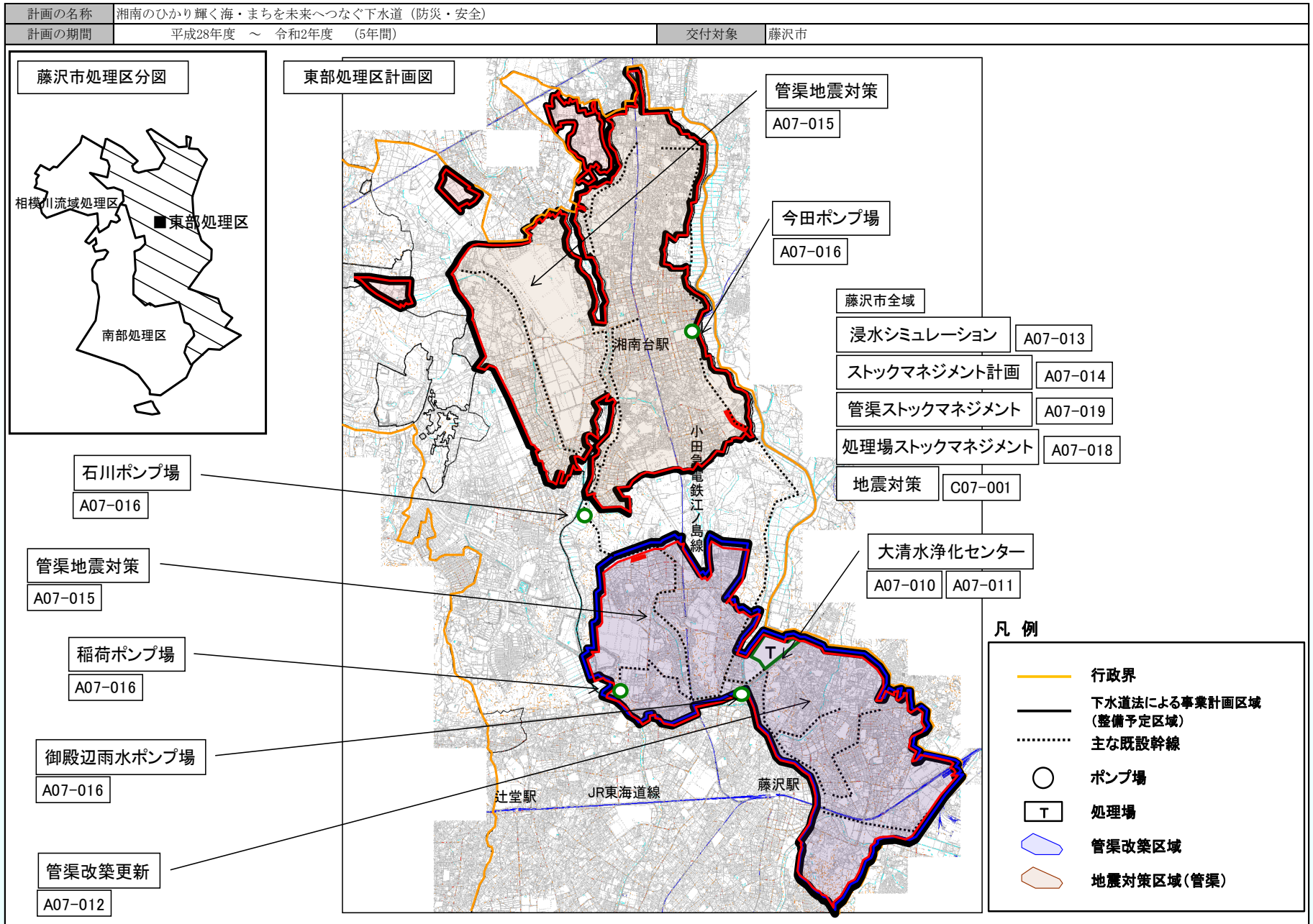
(単位：百万円)

要素事業 番号	要素となる事業名	事業内容	全体事業費 (計画値)	全体事業費 (実績値)	総事業費	進捗 状況
C07-001	藤沢市全域 地震対策	復旧資器材の確保 (減災対策)	53	22	23	完了
		計	53	22	23	

※効果促進事業とは

社会資本総合整備計画の目標を実現するため、基幹事業と一体と
なってその効果を一層高めるために必要な事業等。





計画の名称 湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道（防災・安全）

計画の期間 平成28年度 ～ 令和2年度（5年間）

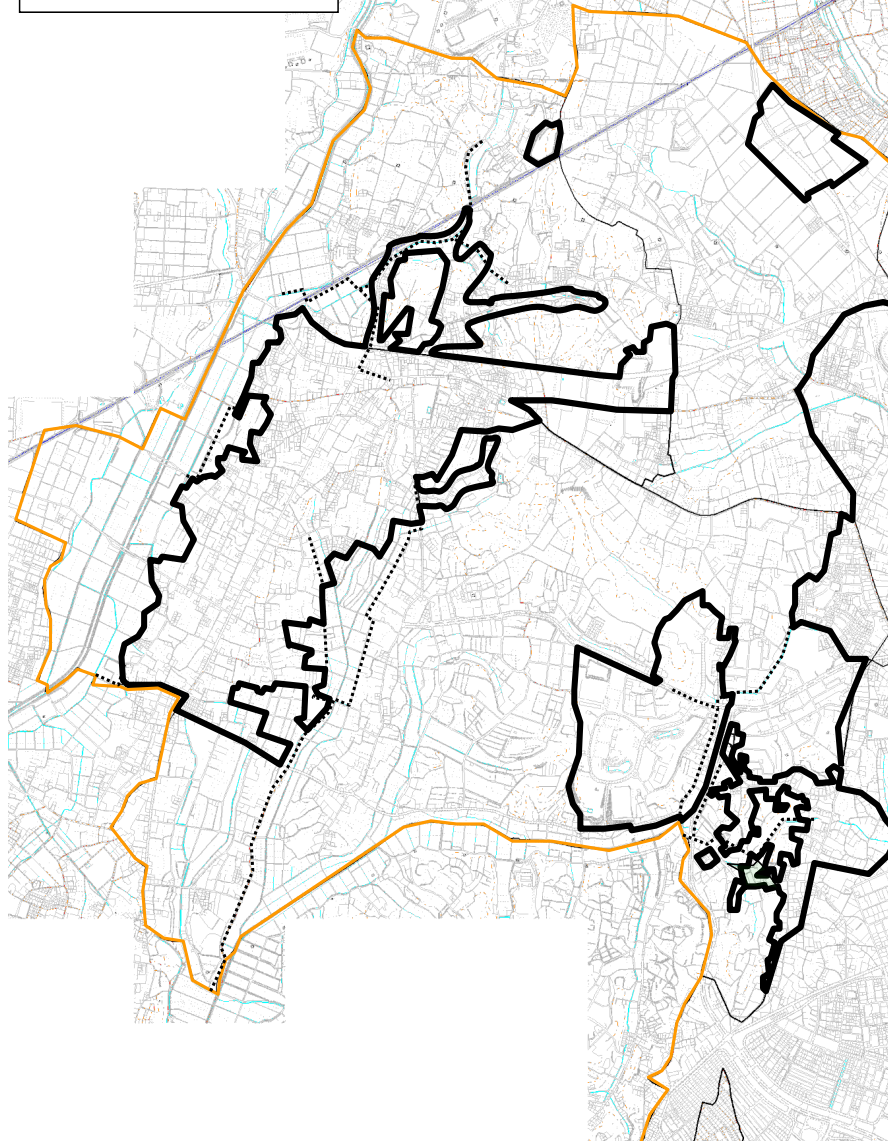
交付対象 藤沢市

藤沢市処理区分図

■相模川流域処理区



相模川流域処理区計画図



藤沢市全域

浸水シミュレーション A07-013

ストックマネジメント計画 A07-014

地震対策 C07-001

凡例

- 行政界
- 下水道法による事業計画区域（整備予定区域）
- 主な既設幹線

(3) 湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道 (防災・安全)



- 計画の成果目標
 - 1 既存ストックの有効利用を考慮した浸水シミュレーションを活用し、浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の評価実施率を0% (H28) から100% (R2) に増加させる。【A07-013】
 - 2 合流式下水道改善率を35.2% (H30) から100% (R5) に増加させる。【A07-001,002】
 - 3 管渠の改築・更新達成率を0% (H28) から6.3% (R2) に増加させる。【A07-008,012,014,017,019】
 - 4 処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率を1.8% (H28) から26.4% (R2) に増加させる。【A07-004,006,011,014,018】
 - 5 重要な管渠の耐震化率を14.9% (H30) から15.1% (R2) に増加させる。【A07-007,015】
 - 6 処理場・ポンプ場施設の耐震化率を20.8% (H30) から22.1% (R2) に増加させる。【A07-003,005,010,016】

社会資本総合整備計画 事後評価書

計画の名称	湘南のひかり輝く海・まちを未来へつなぐ下水道（防災・安全）												
計画の期間	平成28年度～令和2年度（5年間）								重点配分対象の該当				
交付対象	藤沢市												
計画の目標	藤沢市公共下水道事業は5つの目標に向け、事業を推進いたします。 ●安全・安心なまちづくりへの貢献 ●湘南の自然環境との共生 ●地域から取り組む地球環境保全 ●快適で潤いあるまちづくりへの貢献 ●自然・ひと・まちが共生する都市を次世代につなぐ												
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	11,678	A	11,625	B	0	C	53	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0.45	%

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 H28当初	中間目標値 H30末	最終目標値 R2末
1	既存ストックの有効利用を考慮した浸水シミュレーションを活用し、浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の評価実施率を0%(H28)から100%(R2)に増加させる。 浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の評価実施率 浸水状況の把握や対策の評価を行った排水区(箇所) / 藤沢市内全排水区(箇所)	0%	50%	100%
2	合流式下水道改善率を35.2%(H30)から100%(R5)に増加させる。 合流式下水道改善率 対策済み汚濁負荷量(t/年) / 必要対策汚濁負荷量(t/年)	37%	35%	35%
3	管渠の改築・更新達成率を0%(H28)から6.3%(R2)に増加させる。 管渠の改築・更新達成率 改築・更新実施延長(m) / 改築・更新が必要な管渠延長(m)	0%	2%	6%
4	処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率を1.8%(H28)から26.4%(R2)に増加させる。 処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率 改築・更新実施施設数(箇所) / 改築・更新が必要な施設数(箇所)	2%	21%	26%
5	重要な管渠の耐震化率を14.9%(H30)から15.1%(R2)に増加させる。 重要な管渠の耐震化率 耐震化管渠延長(m) / 地震対策を行う重要な管渠延長(m)	21%	15%	15%
6	処理場・ポンプ場施設の耐震化率を20.8%(H30)から22.1%(R2)に増加させる。 処理場・ポンプ場施設の耐震化率 耐震化施設数(箇所) / 耐震化を有すべき施設数(箇所)	14%	21%	22%

備考等	個別施設計画を含む	<input type="radio"/>	国土強靱化を含む	<input type="checkbox"/>	定住自立圏を含む	<input type="checkbox"/>	連携中枢都市圏を含む	<input type="checkbox"/>	流域水循環計画を含む	<input type="checkbox"/>	地域再生計画を含む	<input type="checkbox"/>
番号2における中間目標値以降は、藤沢市南部処理区合流式下水道緊急改善計画の変更（H29）に伴う「必要対策汚濁負荷量」を反映させている。また中間目標値(H30)から最終目標値(R2)において増加していないが、令和5年度を完了目標とする事業が完了して初めて100%となる。番号5、6における中間目標値以降は、藤沢市下水道総合地震対策計画（第二期）の策定（H29）に伴う「地震対策を行う重要な管渠延長」及び「耐震化を有すべき施設数」の拡充を反映させている。												





- 1 既存ストックの有効利用を考慮した浸水シミュレーションを活用し浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の評価実施率を0%（H28）から100%（R2）に増加させる。
【要素事業番号 A07-013】**

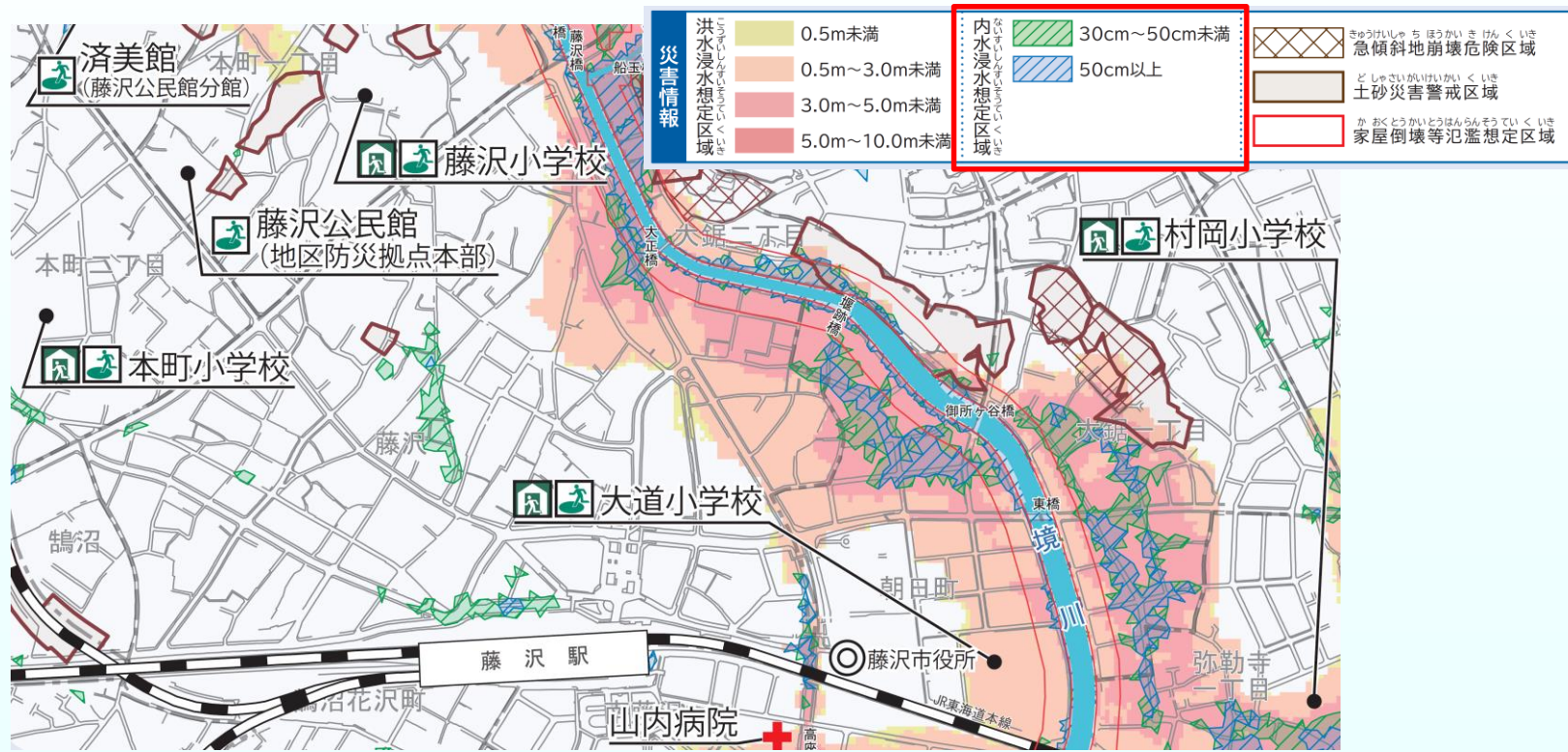
浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の評価実施率
浸水状況の把握や対策の評価を行った排水区（箇所） /
藤沢市域内全排水区（箇所）

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	目標値と実績値に差が出た要因
1	浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の評価実施率 最終目標値 100%	適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。
	最終実績値 100%	
2	合流式下水道改善率 最終目標値 35%	目標値の達成は令和5年度事業完了時のため、数値はそのまま。
	最終実績値 35%	
3	管渠の改築・更新達成率 最終目標値 6%	長寿命化計画からストックマネジメント計画の検討を行いながら、長寿命化計画での緊急度の高い管路の改築を行ったため。
	最終実績値 3%	
4	処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率 最終目標値 26%	計画に含まれる1か所について、計画の見直しを行ったため。
	最終実績値 25%	
5	重要な管渠の耐震化率 最終目標値 15%	令和2年度の国補正第3号予算に伴う事業の前倒し実施をしたため、目標を上回った。
	最終実績値 15%	



1 浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の評価実施率

「きめ細かい浸水対策」を実現するうえで、定量的に浸水リスクを評価するために、市全域における浸水シミュレーションによる評価を行いました。



出典：ふじさわ防災ナビ～いま、わたしたちにできること。～



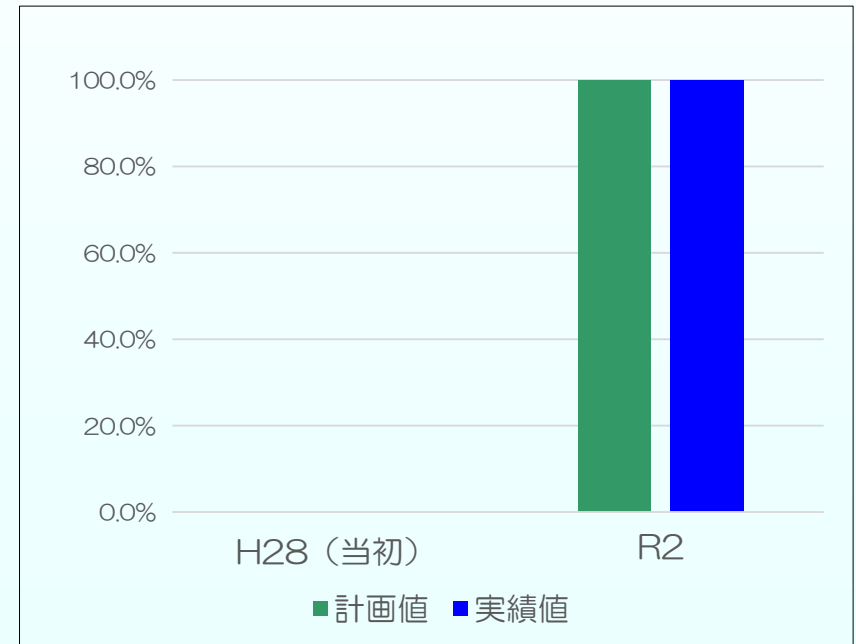


1 浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の 評価実施率



● 目標値と実績値に差が出た要因
適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。

● 主な事業内容
南部処理区（合流地区）雨水管理計画策定委託（H28）
藤沢市雨水管理総合計画策定委託（その2）（R1）





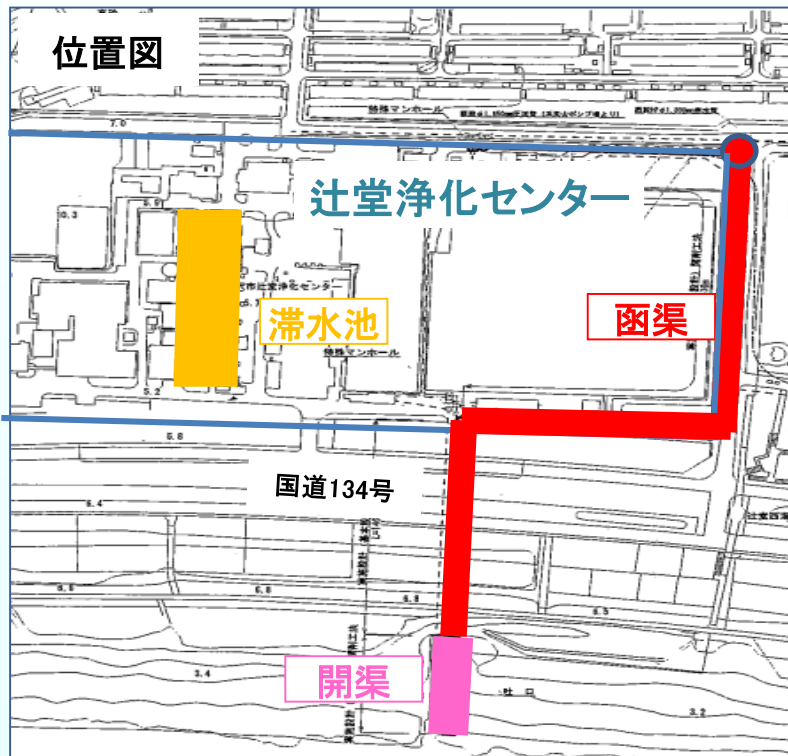
2 合流式下水道改善率を35.2%（H30）から100%（R5）に増加させる。 【要素事業番号 A07-001,002】

合流式下水道改善率
対策済み汚濁負荷量（t/年）／必要対策汚濁負荷量（t/年）

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の評価実施率 適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。
	最終実績値	
2	最終目標値	合流式下水道改善率 目標値の達成は令和5年度事業完了時のため、数値はそのまま。
	最終実績値	
3	最終目標値	管渠の改築・更新達成率 長寿命化計画からストックマネジメント計画の検討を行いながら、長寿命化計画での緊急度の高い管路の改築を行ったため。
	最終実績値	
4	最終目標値	処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率 計画に含まれる1か所について、計画の見直しを行ったため。
	最終実績値	
5	最終目標値	重要な管渠の耐震化率 令和2年度の国補正第3号予算に伴う事業の前倒し実施をしたため、目標を上回った。
	最終実績値	

2 合流式下水道改善率

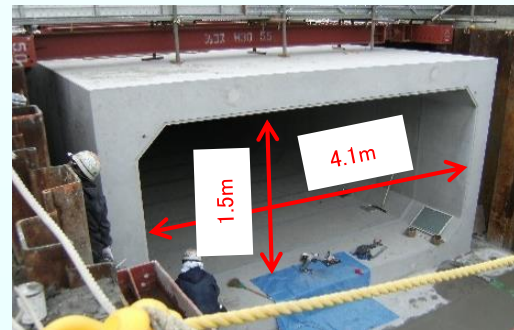
海・川のさらなる水質改善を図るため、南部処理区における汚濁負荷量の削減のための**合流式下水道緊急改善対策事業**を進めました。



辻堂浄化センター
雨水滞水池 現場写真
 $V=11,300\text{m}^3$



辻堂南部放流管 イメージ写真





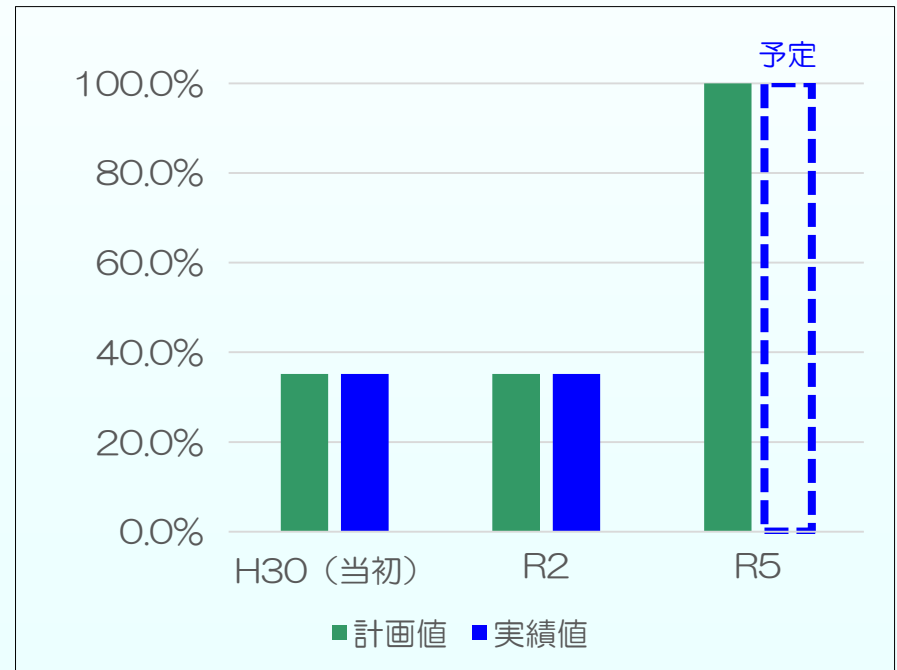
2 合流式下水道改善率



※平成30年に母数の見直しを行ったため
指標は平成30年が基準となっている。

● 目標値と実績値に差が出た要因
目標値の達成は令和 5 年度事業完了時の
ため数値はそのまま。

● 主な事業内容
辻堂南部放流管築造工事 (H30-R2)
辻堂浄化センター雨水滞水池建設工事委託
(R2-5)





- 3 管渠の改築・更新達成率を0%（H28）から6.3%（R2）に増加させる。**
【要素事業番号 A07-008,012,014,017,019】

管渠の改築・更新達成率
改築・更新実施延長（m）／改築・更新が必要な
管渠延長（m）

○目標値の達成状況		
番号	指標(略称)	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の評価実施率 適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。
	最終実績値	
2	最終目標値	合流式下水道改善率 目標値の達成は令和5年度事業完了時のため、数値はそのまま。
	最終実績値	
3	最終目標値	管渠の改築・更新達成率 経過年数等を考慮し、長寿命化計画における対象区域の全施設に対して対策を行うこととしていたが、市域全体でのストックマネジメント計画策定により、緊急性の高い施設に対して対策を行うこととしたため。
	最終実績値	
4	最終目標値	処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率 計画に含まれる1か所について、計画の見直しを行ったため。
	最終実績値	
5	最終目標値	重要な管渠の耐震化率 適切に事業を執行したことに加え、令和2年度の国補正第3号予算に伴う事業の前倒し実施をしたため、目標を上回った。
	最終実績値	

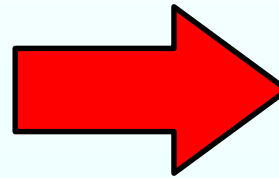
3 管渠の改築・更新達成率

下水道管渠の老朽化に起因する道路陥没等を未然に防ぐため、**下水道管渠長寿命化対策**に着手しました。



実際の道路陥没

未然に防ぐ！



管渠更生



人孔更生



3 管渠の改築・更新達成率



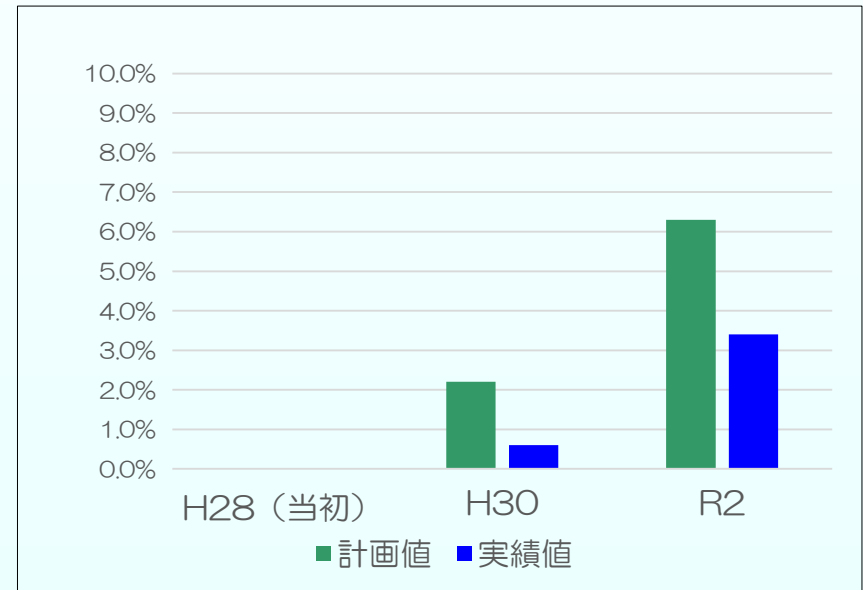
※ストックマネジメント実施方針策定時に母数の見直しを行った。

● 目標値と実績値に差が出た要因

経過年数等を考慮し、長寿命化計画における対象区域の全施設に対して対策を行うこととしていたが、市域全体でのストックマネジメント計画策定により、緊急性の高い施設に対して対策を行うこととしたため。

● 主な事業内容

- 辻堂新町三丁目地内管渠更生工事 (R2)
- 南部処理区管渠更生工事 (その2) (R1)





- 4 処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率を1.8%
（H28）から26.4%（R2）に増加させる。
【要素事業番号 A07-004,006,011,014,018】**

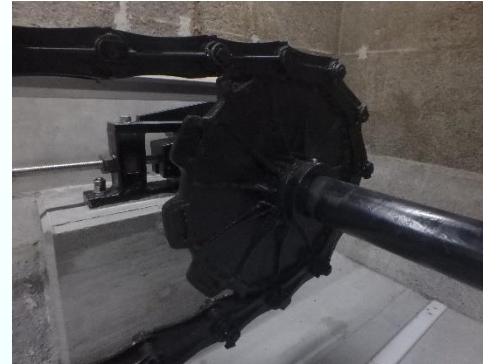
**処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率
改築・更新実施施設数（箇所）／改築・更新が必
要な施設数（箇所）**

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の評価実施率 適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。
	最終実績値	
2	最終目標値	合流式下水道改善率 目標値の達成は令和5年度事業完了時のため、数値はそのまま。
	最終実績値	
3	最終目標値	管渠の改築・更新達成率 長寿命化計画からストックマネジメント計画の検討を行いながら、長寿命化計画での緊急度の高い管路の改築を行ったため。
	最終実績値	
4	最終目標値	処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率 計画に含まれる1か所について、計画の見直しを行ったため。
	最終実績値	
5	最終目標値	重要な管渠の耐震化率 令和2年度の国補正第3号予算に伴う事業の前倒し実施をしたため、目標を上回った。
	最終実績値	



4 処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率

日常生活や社会活動に重大な影響を及ぼす、処理場やポンプ場の事故発生や機能停止を未然に防止するため、**長寿命化対策**に取り組みました



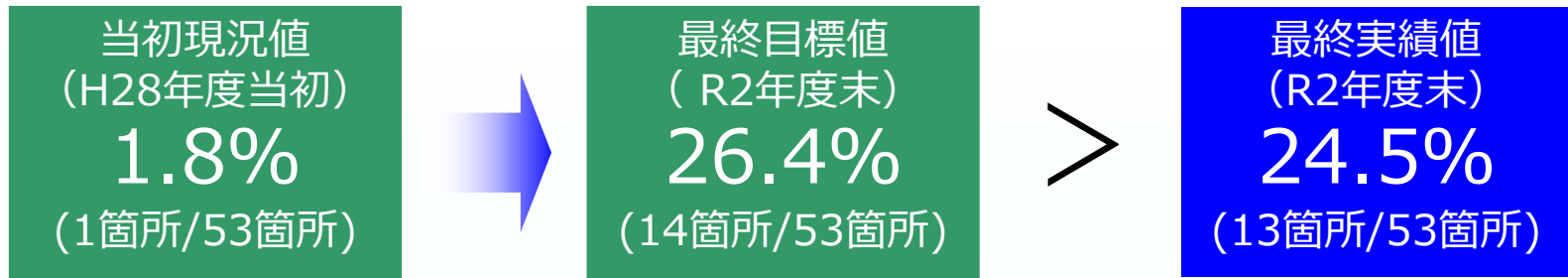
現地状況

令和元-2年度
大清水浄化センター水処理
第1系列最初沈殿池改築工事



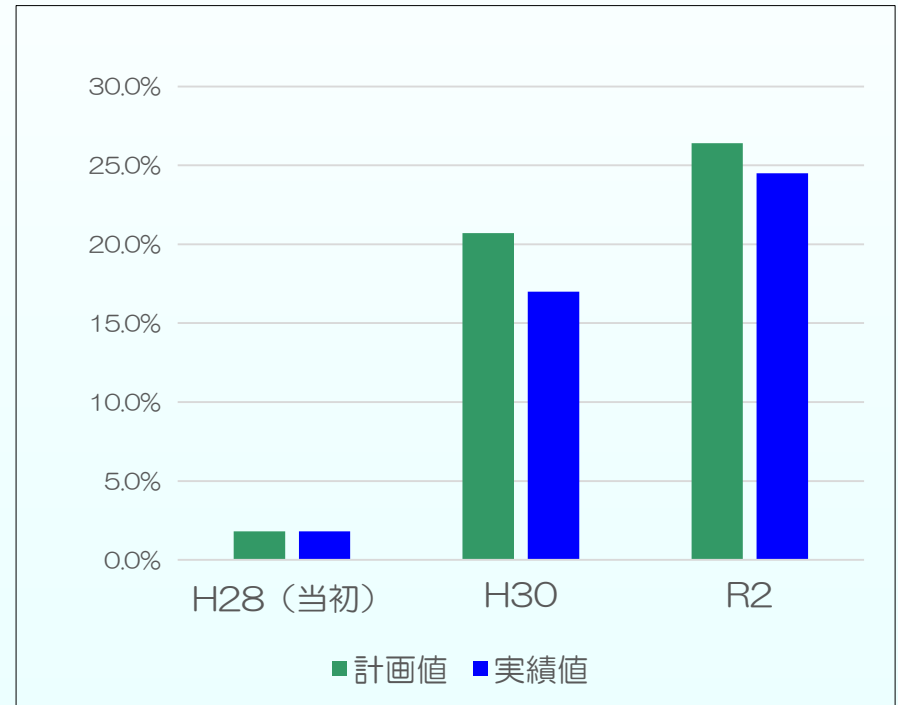


4 処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率



● 目標値と実績値に差が出た要因
計画に含まれている1か所について、計画の見直しを行ったため。

- 主な事業内容
辻堂浄化センター2号焼却炉設備改築機械工事 (H26-28→29)
- 辻堂浄化センター2号焼却炉設備改築電気工事 (H27-28→29)





- 5 重要な管渠の耐震化率を14.9%（H30）から
15.1%（R2）に増加させる。
【要素事業番号 A07-007,015】**

重要な管渠の耐震化率

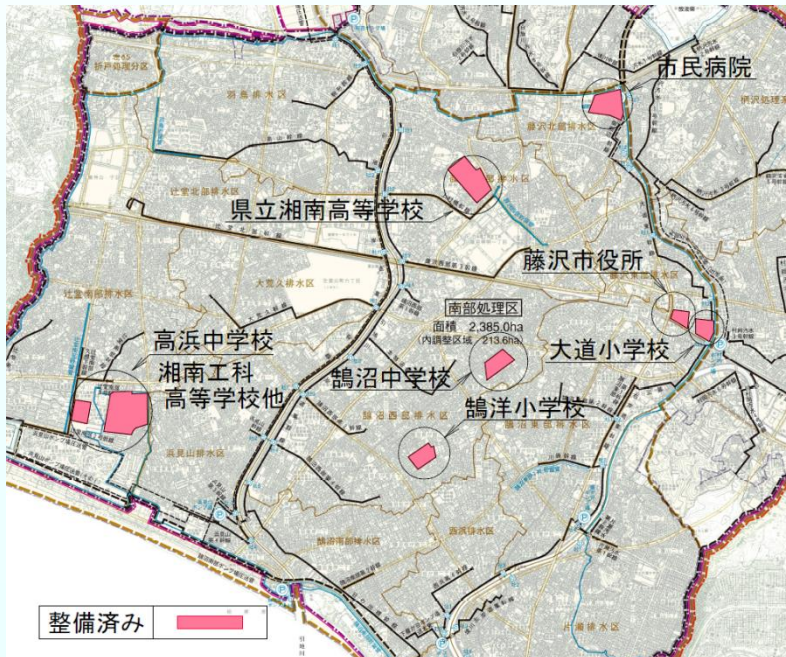
**耐震化管渠延長（m）／地震対策を行う重要な
管渠延長（m）**

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	目標値と実績値に差が出た要因
1	最終目標値	浸水状況の把握や対策の評価を行う排水区の評価実施率 適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。
	最終実績値	
2	最終目標値	合流式下水道改善率 目標値の達成は令和5年度事業完了時のため、数値はそのまま。
	最終実績値	
3	最終目標値	管渠の改築・更新達成率 長寿命化計画からストックマネジメント計画の検討を行いながら、長寿命化計画での緊急度の高い管路の改築を行ったため。
	最終実績値	
4	最終目標値	処理場・ポンプ場施設の改築・更新達成率 計画に含まれる1か所について、計画の見直しを行ったため。
	最終実績値	
5	最終目標値	重要な管渠の耐震化率 令和2年度の国補正第3号予算に伴う事業の前倒し実施をしたため、目標を上回った。
	最終実績値	

5 重要な管渠の耐震化率

市役所・市民病院及び避難施設からの流末管路などの重要な管渠のうち、重要度や危険度を考慮し、策定した下水道総合地震対策計画に基づき**管路の地震対策事業**に着手しております。

対象施設耐震化状況





5 重要な管渠の耐震化率

当初現況値
(H30年度当初)
14.9%
(30,222.0m
/202,154.0m)



最終目標値
(R2年度末)
15.1%
(30,681.7m
/202,154.0m)

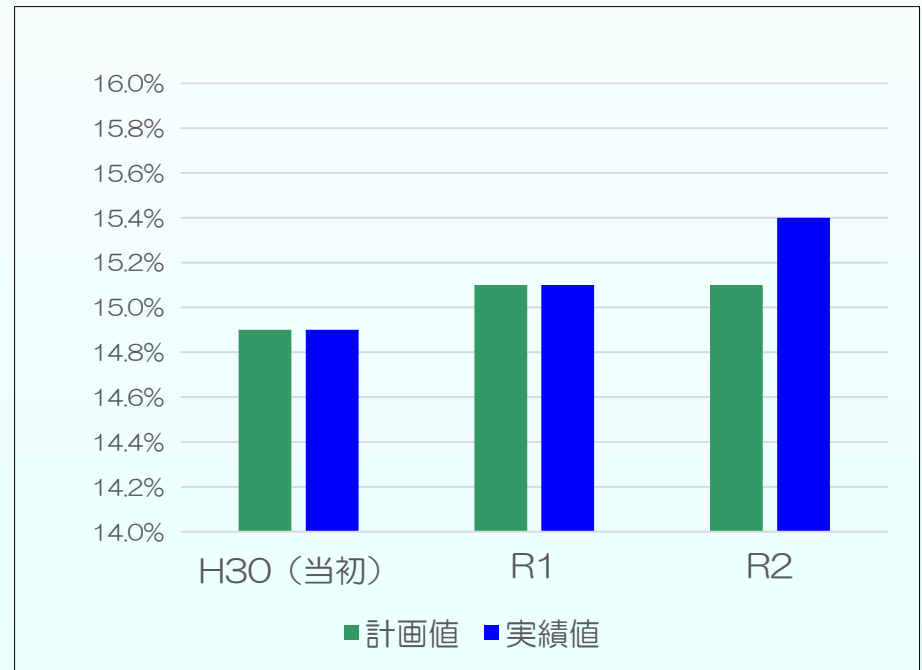


最終実績値
(R2年度末)
15.4%
(31,184.3m
/202,154.0m)

※平成30年に母数の見直しを行ったため
指標は平成30年が基準となっている。

● 目標値と実績値に差が出た要因
適切に事業執行したことに加え、令和2年度の国補正第3号予算に伴う事業の前倒し実施をしたため、目標を上回った。

● 主な事業内容
東部処理区管渠更生工事 (R1)
鵜沼松が岡五丁目地内管渠更生工事 (R2)





6 処理場・ポンプ場施設の耐震化率を20.8% (H30) から22.1% (R2) に増加させる。 【要素事業番号 A07-003,005,010,016】

処理場・ポンプ場施設の耐震化率
耐震化施設数 (箇所) / 耐震化を有すべき施設数
(箇所)

○目標値の達成状況		
番号	指標（略称）	目標値と実績値に差が出た要因
6	処理場・ポンプ場施設の耐震化率	適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。
	最終目標値 22%	
	最終実績値 22%	



6 処理場・ポンプ場施設の耐震化率

浄化センター・ポンプ場での人的被害・二次災害の未然防止と未処理下水の流出による公共用水域の汚染防止のため、**処理場・ポンプ場の地震対策**に取り組みました。



現地状況

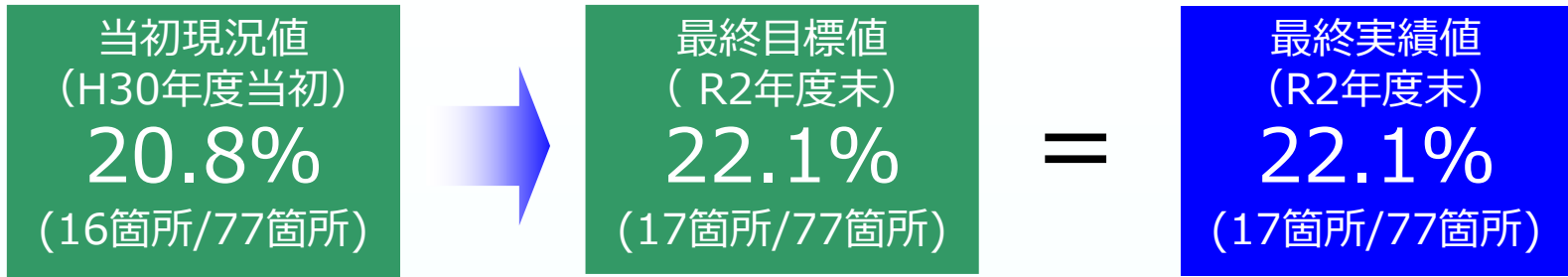
平成28-29年度
辻堂浄化センター管理棟建設工事
← (JS)

令和元→2年度
大清水浄化センター自家発電
機棟耐震対策工事 (JS) →





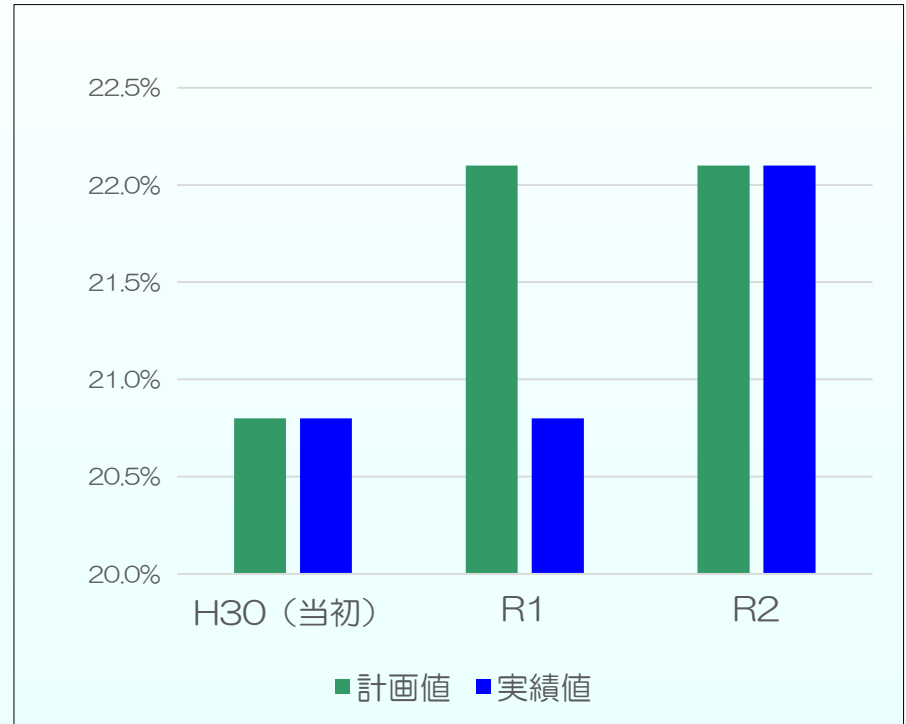
6 処理場・ポンプ場施設の耐震化率



※平成30年に母数の見直しを行ったため指標は平成30年が基準となっている。

● 目標値と実績値に差が出た要因
適切に事業執行したことから、最終目標値に達した。

- 主な事業内容
辻堂浄化センター管理棟建設工事 (JS) (H28-29)
大清水浄化センター耐震診断委託 (R2)





★事業効果の発現状況

- 合流式下水道改善率の向上に係る事業を実施したことにより、この事業の完了に伴いその効果を発現する。
- 管渠の改築・更新により、老朽化に起因する道路陥没等を未然に防ぐことにつながった。
- 処理場・ポンプ場施設の改築・更新により、事故発生や機能停止の未然の防止につながった。
- 重要な管渠の耐震化により、震災時における下水道の流下機能の確保、向上が図られた。
- 処理場・ポンプ場施設の耐震化により、震災時における下水道の処理機能の確保、向上が図られた。



(4) 今後の方針等に関すること

財政状況の厳しさから予算の確保が難しいながらも、まずは令和5年度までの時限が定められている合流式下水道改善事業を主体に行う。未普及対策、浸水対策についても、他事業の進捗に合わせて進めていく。

また、中期経営計画（案）で重点施策と位置付けている

- ・下水道施設の計画的な地震・津波対策の推進（ハード対策）
- ・ストックマネジメント実施方針の着実な推進
- ・効率的な浸水対策施設整備の推進

を行っていく。